

# 目次

1. 神が反逆者たちに手を差し伸べられる	5
2. すべての者は罪人である	10
3. 義認一着せられた義	15
4. 信仰の実	20
5. もはや罪の奴隷ではない	25
6. 奴隷の身分から成功へ	31
7. 信頼を通して勝利	36
8. わたしたちの機会を大切にする	41
9. 全能者の力	46
10. 神の愛によって変えられる	52
11. 友と敵のただ中で	57
12. へりくだった柔和のうちに	62
13. 信仰という最終的な遺産	67

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

セブンスデーアドベンチス ト改革運動世界総会安息 日 学 校 部 (P.O.Box 7240 Roanoke, Virginia 24019-0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.98, No.1

編集&発行:

S DA改革運動日本ミッション

 $\mp 368 - 0071$ 

埼玉県秩父郡横瀬町芦ケ久保 1607-1

TEL: (0494) 22-0465

URL:

http://www.4angels.jp

E-mail:

sdarm.shomaru@gmail. com

イ ラ ス ト: Illustrations: Sermon View on the front cover; Map Resources on p. 51.

### まえがき

今期の安息日学校の研究は、ローマにおけるクリスチャン生活に宛てたパウロの手紙に基づいています。なぜこの手紙の研究が、今日非常に重要なのでしょうか。「パウロは、ローマ人への手紙の中で、福音の大原則を説明した。彼は、当時ユダヤ人や異邦人の教会において議論になっていた問題についての、彼の立場を表明した。そして、かつてはユダヤ人だけに与えられていた希望と約束が、今や異邦人にも与えられていることを示した。

パウロは、非常に明快に、力をこめて、キリストを信じる信仰による義の教理を説明した。彼は、ローマのクリスチャンたちに送った教えによって、他の諸教会もまた、助けが与えられるようにと願った。しかし 彼は、自分の言葉がどんなに遠大な影響を及ぼすに至るかについては、なんとばく然とした予測しかできなかったことであろう。各時代を通じて、信仰による義という大真理は、大きな灯台のように立って、悔い改める罪びとを生命の道へ導いた。ルターの心を閉ざした暗黒を追い払い、罪を清めるキリストの力を彼に示したのは、この光であった。同じ光が、幾千という罪の重荷に悩む魂を、ゆるしと平和の真の源であられるイエスに導いた。すべてのクリスチャンは、ローマの教会への手紙に対して、神に感謝しなければならない。」(患難から栄光へ下巻 55, 56)

堕落以降、人類全体の霊的な状態は、どのようなものであったでしょうか。救いの計画において、神の道徳律のご目的は何でしょうか。神のみ前にわたしたち個々人の状態は、どうでしょうか。信仰は、わたしたちの贖いにおいて、どのような役割を果たすでしょうか。わたしたちは、信仰によって義認されるのでしょうか、あるいは行いによってでしょうか。律法は信仰によって無効にされたのでしょうか、あるいは確立されたのでしょうか。わたしたちは律法を守ろうとする自分の最善の努力によって、罪に勝利できるでしょうか。わたしたちの再生の過程全体において、聖霊の役割は何でしょうか。市民当局に対するわたしたちの態度は、どうあるべきでしょうか。

マルチン・ルターはローマ書について記したコメンタリの序章で、次のように宣言しました。「この手紙は真実、新約と純粋な福音の最も主要な部分である。クリスチャンにとって、それを暗唱することによって知るだけでなく、日々研究することが、非常にふさわしい。なぜなら、それは魂の日々のパンだからである。それは読むにも瞑想するにも、しすぎたり、知りすぎたりすることは決してできない。それを徹底的に取り扱えば扱うほど、ますます貴重なものとなり、味わい深いものとなる。」

疑いもなく、16世紀の改革において、この手紙は重要な役割を果たしました。そして今、改革の最終的な運動の一部として、この「最も尊いメッセージ」をはっきりと理解する必要があります(牧師への証 91)。

主がこの貴重なメッセージのすべての教師と生徒を豊かに祝福してくださいますように! 世界総会安息日学校支部

### 第一安息日献金 プリマス指導者カレッジのために

霊感の筆は次の言葉を、何度も繰り返しています、「教育しなさい、教育しなさい、教育しなさい、教育しなさい、教育しなさい、文書伝道者が、医事伝道者が、そしてすべての青年たちが、主のぶどう畑の新しい伝道地を開くためです。「青年を訓練し、品性を形成し、将来の不死の命のために、教育しなさい、教育しなさい、教育しなさい」(教会への証5巻590)。

プリマス指導者カレッジ (PLC) は、まさにこの使命を果たそうとしています。北アメリカ地方で忠実な兄弟たちが始めた伝道学校を基礎にして、テネシー、ペンシルベニア、コロラド、カリフォルニアの学校を含めて、西米国ユニオンは、教育に焦点を当てた場所を設立する価値を認めました。こ



の目的のために 1950 年代に北カリフォルニアの郊外にキャンパスを購入しました。そして時おり使用されてきました。しかし、今、西米国ユニオンはこれを正式なものとし、この教育を定期的に提供したいと考えています。世界中の多くの改革運動のメンバーにモライヤ・ハイツとして知られているこの場所には、今や PLC のキャンパスや他の教会施設、小学校や農業プログラムなどがあります。伝道地に入り、この世に対する最終的な警告のメッセージを宣布させるために、わたしたちの青年を準備するのに理想的な田舎に位置しています。

キャンパスでの学びとオンラインでの指導を組み合わせて、PLCは、カリフォルニアだけでなく、世界中の生徒に、中等教育後の質の高い教育を提供することができます。北アメリカ全土を通じて、また同様に、太平洋諸島、アフリカ、南アメリカからも生徒たちがキャンパスで授業に参加してきました。パンデミックにより、自ら授業に出ることを妨げられてきた人々の必要に答えるために、オンラインでプログラムに参加できる価値が教えられました。そして、今、この献金が集められるときに、米国全土と世界中からの生徒たちの別のクラスが、加速伝道プログラムを開始しています。

この事業に皆さんの支援が重要不可欠です。集められた一円一円は、そのまま皆さんが手に入れることのできる教材の増版につながります。この献金はみなさん自身、地元の教会、そして皆さんの地域への投資です。皆さんが惜しみなく捧げたあと、www.plymouthcollege.usへ訪問し、自らPLCへ参加することによって、教育の働きを継続して支援してください。新しいコースが追加されています。

西米国ユニオンから皆さんの兄弟より

# 神が反逆者たちに 手を差し伸べられる

暗唱聖句:「なぜなら、彼らは神を知っていながら、神としてあがめず、感謝もせず、 かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからである。彼らは自ら 知者と称しながら、愚かになり」(ローマ 1:21, 22)

「この世の国々は堕落した習慣によって、神についての知識を失った。彼らは、 以前に神を知っていた。しかし、『神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思 いはむなしくなり、その無知な心は暗くなった』のである。」(患難から栄光へ上巻 5,6)

推奨文献: ローマ人への手紙 1:18-32;

家庭の教育 473-478

日曜日 12月26日

- 1. 人類に対する神の啓示
- a. 神はどのようにして人類にご自身を明らかになさいますか (ローマ 1:18, 19)。

「自然と啓示は、神の愛をあかししている。天の父なる神は、生命と知恵と喜びの源である。自然のたえに美しいものを見なさい。また自然が、人間ばかりでなく、あらゆる生物の必要と幸福を驚くばかり満たしていることを考えてみなさい。輝かしい日の光 、地をうるおす雨、また山、丘、海、平原それらはみな神の愛を物語っている。このようにすべての造られたものの必要をお満たしになるのは神である。」(キリストへの道 1)

b. 異教の人々の間での典型的な誤った救いの概念は何ですか。誰がこれを考案しましたか (ガラテヤ 2:16; エペソ 2:9)。

「異教制度を通して、サタンは長年の間人々を神からひき離してきた。…人は自らのわざによって自分自身を救うことができるという原則が異教のすべての宗教の根底にあった。…サタンがこの原則をうえつけたのであった。この原則を信じているところではどこでも、人は罪に対する防壁がない。」(各時代の希望上巻 26)

- 2. 失われる言い訳はない
- a. なぜだれも失われる言い訳はできないのですか (ローマ 1:20; 2:14, 15)。

「異教徒の中には、知らないで真の神を礼拝している人たち、すなわち人を通して光を与えられたことのない人たちがいるが、それでも彼らは滅びないのである。彼らは書かれた神の律法については無知であるが、自然を通して語りかける神のみ声を聞き、律法に要求されていることを実行した。彼らのわざは聖霊が彼らの心にふれた証拠であって、彼らは神の子らとして認められる。」(各時代の希望下巻108, 109)

- b. 聖霊と神の自然界の創造を通して彼らに明らかにされた神聖な光を拒む人々に何が起こりますか(ローマ 1:21-25)。
- c. 神の真理を故意に拒む人々は最終的にどの水準の道徳的低下に到達しますか (ローマ1:26-28)。
- d. パウロは他にどのような邪悪な行為について言及していますか。そしてその最終的な結果はどうなるでしょうか (ローマ1:29-32)。

「人々は神を全く忘れ、自分たちがかってにつくり上げたものを拝んでいた。その結果、彼らはますます堕落した。偶像を拝むものが偶像からどんな影響を受けるかについて、詩篇記者はこう言っている。『これを造る者と、これに信頼する者とはみな、これに等しい者になる』(詩篇 115:8)。ながめることによって変化するのは、人間の精神の法則である。人間は、真理、純潔、聖潔に関して、自分が持っている観念以上に到達するものではない。もし、精神が、人間的水準以上に高められず、無限の知恵と愛を瞑想するために信仰によって高尚にされないならば、人間は常に低い方へ低い方へと沈んでいくのである。偽りの神の礼拝者は、その神々に人間の性質と情欲とを付与した。こうして、彼らの品性の標準は罪深い人間の形に下落した。その結果、彼らは堕落したのである。『主は人の悪が地にはびこり、すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりであるのを見られた』『時に世は神の前に乱れて、暴虐が地に満ちた』(創世記 6:5,11)。神は、生活の規準として、律法を人々にお与えになったが、人々は、律法を犯し、そのためにありとあらゆる罪が生じた。」(人類のあけぼの上巻 88,89)

#### 3. 偽善と自己義

a. パウロは他人を非難する人々に関してどのような説明をしましたか (ローマ 2:1-3)。

「自分の行ないによって救いを得ようとする努力は、必然的に、罪に対する防壁として人間的なきびしい要求を積み重ねるように人々にさせるのである。自分たちが律法を守れないのを知って、彼らは、自分自身のさまざまな規則や規定を作り出して、自分を無理にそれに従わせようとするのである。このようなことはみな、人の心を神から転じて自己へ向けるのである。神の愛は心から消え去り、それとともに隣人に対する愛も消えうせてしまう。人間の作り出した規律は、おびただしい要求を伴うもので、その規律の支持者に、定められた人間的標準に達しないすべての人をさばくようにさせるのである。自分本位の狭い批判の空気は、けだかく寛大な感情を押えつけ、人々を自己中心的な裁判官や心の小さなスパイにしてしまう。」(祝福の山 153)

「さばきの事柄には多くのことが関係している。すぐにでもあなたの人生の記録が神の前で調査されるということを忘れてはならない。」(教会への証8巻85)

b. どのように悔い改めが、わたしたちの心にもたらされますか (ローマ 2:4; 使徒行 伝 5:31)。

「〔ダビデの悔い改めの〕ような悔い改めは、自分の力ではとてもできるものではない。これは天にお上りになって、人類に聖霊の賜物を与えてくださるキリストによるほかない。…

罪人が真に悔い改めるようになるのは、キリストから出る力によるのである。ペテロはこの点をはっきり述べて『イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与えるために、このイエスを導き手とし救い主として、ご自身の右に上げられたのである』(使徒行伝 5:31) とイスラエル人に言っている。わたしたちはキリストなくしてはゆるしが与えられないのと同じように、キリストの霊が良心をよびさまさなければ悔い改めることができないのである。(キリストへの道 28)

c. その一方、悔い改めない結果はなんですか (ローマ 2:5-11)。

「救い主の仲保のお働きが終わり、もはや罪のための犠牲がなくなってしまうその時まで、人々を悔い改めさせず、暗黒の中に閉じこめておくことが、サタンのめざすところである。」(各時代の大争闘下巻 260)

- 4. わたしたちの機会のための説明責任
- a. 神の裁きにおける公正で公平な測りについて説明しなさい (ローマ 2:12, 13; ルカ 12:47, 48)。

「光を持たない異教徒と、真理と光の知識が豊富にあるところに住んでいる者たちに対する神のテストは、全く異なる。異教世界からやって来た者たちによる、ある程度の義を、神がお受入れになったとしても、その義がキリスト教世界に生きる者たちによるとき、それで満足なさるわけではない。多く与えられていないところから、神は多くを要求なさらない。」(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント ]5 巻1121)

b. 老いも若きもキリストの血からどのような恩恵を得ることができますか (ローマ 1:16, 17; ヨハネ第一 1:7)。

「主は若い人たちに『わが子よ、あなたの心をわたしに与え』よと仰せになる(箴言 23:26)。この世の救い主は、若い人々や子供たちが心を主にささげるのをお喜びになる。神に忠実な者として認められる子供の大軍がいる。キリストが光の中におられたように、彼らも光の中を歩んでいるからである。彼らは主イエスを愛するので、主をよろこばせまつることが自分のよろこびとなる。彼らはしかられても腹をたてず、親切と忍耐をつくし、日常生活の重荷を負う助けになるように全力を尽くすことによって、父母の心をよろこばせる。少年時代からすでに彼らは主の忠実な弟子とみとめられる。」(アドベンチスト・ホーム 332)

c. わたしたちのキリストへの明け渡しには何が関係していますか (マタイ 16:24)。

「キリストの十字架は、『永遠の重い栄光』のかかる主柱である。『だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい』と、キリストは言われる(コリント第二 4:17、マタイ 16:24)。神に対するわれわれの愛を示すものは、同胞に対するわれわれの愛のかおりである。魂に休息をもたらすのは、奉仕における忍耐である。謙遜に、勤勉に、忠実に働いてこそ、イスラエルの幸福は増し加えられる。神はキリストの道に自発的に従いたいと思う者を支え、強めて下さるのである。」(患難から栄光へ下巻 263)

#### 5. 真の割礼 — バプテスマ

a. パウロによれば、どのような種類の割礼やバプテスマが本当に有効なのですか (ローマ人への手紙 2:25-27)。バプテスマはいつ合法的ですか (マルコによる福音書 16:16)。

「『み子を信じる者は永遠の命をもつ』… 魂にいのちを与えるのはキリストの恵みである。キリストを離れては、バプテスマは、他の儀式と同じように、無価値な形式である。」(各時代の希望上巻 214)

b. キリストの時代のユダヤ国家とは対照的に一誰が神の御目には本当のユダヤ人 またはクリスチャンですか (ヨハネによる福音書 3:36; ローマ人への手紙 2:28, 29)。

「〔ユダヤ人国家〕は自らを特別で忠実な神から恩寵を受けた民として表してきた。しかし、キリストは彼らの宗教を救う信仰がないものとして表された。それは犠牲と捧げ物が混ぜ込まれた乾いた堅い教理の組み合わせであった。彼らは割礼を施すのに非常に厳密であった。しかし、彼らは純潔な心を持つ必要性を教えなかった。彼らは言葉では神の戒めを高めていたが、実践においてそれを高めることを拒んだ。彼らの宗教はただ人々にとってつまずきの石に過ぎなかった。」(レピュー・アンド・ヘラルド 1895 年 4 月 30 日)

「われわれがキリストを受け入れ、父と子と聖霊の名によって神に仕えることを誓約した時、天父、キリスト、聖霊一天の三つの権限と力は、もしわれわれが『彼らから出て行き、……分離し……汚れたものに触れ(ない)』というバプテスマの誓いを果たしていく限り、あらゆる便宜を与えると自ら誓われたのである。われわれが自分の誓いに忠実であれば、『わたしはあなたがたを受け入れよう』と神は言われる。」(SDA パイプル・コメンクリ [E・G・ホワイト・コメント] 6巻1075)

金曜日 12月31日

#### 個人的な復習問題

- 1. 不信者に手を差し伸べる時、わたしたちは何を認めるべきでしょうか。
- 2. 社会の道徳が悪化するにつれて、なぜわたしたちはローマー章を研究しなければ ならないのでしょうか。
- 3. クリスチャンとして悔い改めについて何を心に留めておく必要がありますか。
- 4. どのように霊的な発達において自己過信になる危険性がありますか。
- 5. 割礼について使徒パウロは何を強調していますか、それはなぜですか。

# すべての者は罪人である

暗唱聖句: 「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、」 (ローマ人への手紙 3:23)

「多くの者が自分たちの心の状態について欺かれている。彼らは生まれながらの心が何よりも欺瞞的であり、ひどく邪悪であることに気がついていない。」(セレクテッド・メッセージ1巻320)

推奨文献: ローマ人への手紙 3:9-23;

SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント 16 巻 1069-1072 ローマ 3 章]

日曜日 1月2日

- 1. これはすべての者に影響する
- a. パウロは宗教的な人々と非宗教的な人々の両方の状態をどのように説明していますか (ローマ人への手紙 3:9, 10)

「みな、同じ罪深い性質を持っている。すべての人は間違いを犯しやすい。だれも完全ではない。主イエスは罪を犯した人がゆるしを受けられるようにと死なれた。 責めるのはわたしたちの仕事ではない。キリストは責めるためではなく救うために来られた。」(天国で 292).

b. パウロは人類の道徳的および精神的な状態についてどのような診断をくだしましたか、そしてこの判断は今日どのように反響していますか(ローマ人への手紙 3:11-19)。

「神の民だと公言する人々の弱々しい状態を見せられたとき、わたしの魂は苦悩の うちに頭を下げた。

悪が満ちており、多くの人の愛が冷えている。クリスチャンだと公言する人に、この〔道徳的汚れ〕の問題を正しい光のうちに考え、公衆の意見や習慣が自分たちを責めていない時に、自らを適切に統治している人はわずかしかいない。自分の感情を抑制するという道徳的な義務の下にいると感じ、自分たちの目の前に神の恐れがあるがゆえに、そうする人々は何と少ないことであろう!」(教会への証2巻347,348)

#### 2. 全世界は神のみ前に有罪

a. 神の完全な義を考慮して、一自分自身を義と思うかもしれないすべての人を含めて一何が全世界の状態ですか (ローマ人への手紙 3:19)

「〔多くの人々〕は、自らの身に自分の義を巻きつけ、自分自身の人間の品性の水準に到達することに満足している。しかし、神聖な水準に到達しないとき、彼らは何と致命的に落第することであろう。そして自分自身では神のご要求にこたえられないのである。」(セレケテッド・メッセージ 1巻 320)

「全世界は、偉大な義の道徳的標準の前に有罪宣告を受けている。裁きの大いなる日に、地上に生きたすべての魂は、自分の行いが神の律法の光のうちに善であったか悪であったかに従って宣告を受けることになる。すべての口は十字架とその死につつある犠牲が共に提示されるときに閉ざされ、その真の意味がそれまで罪によって盲目にされ、堕落してきた思いによって認められる。罪人は十字架と、人間の不法という無限の重荷の下に伏している神秘的な犠牲の前に、有罪宣告を受ける。どれほどすみやかに、すべての言い逃れ、偽りの言い訳が、一掃されることであろう!人間の背教は、その忌むべき性質のままに現れるようになる。人間は自分たちの選択が何であったかを認めるようになる。彼らはそのとき自分たちが、平和の君であられるキリストの代わりに、バラバを選んだことを理解するようになる。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1895年3月7日)

b. 何が神の律法の恩益であり、何が違いますか (ローマ人への手紙 3:20)。

『律法によって…、罪の自覚が生じる』(ヨハネ第一3:4、ローマ3:20)。自分の罪を悟るためには、罪人は自分の品性を、神の義の偉大な標準によって吟味しなければならない。それは、正しい品性の完全さを示して、罪人に自分の品性の欠陥を発見させる鏡である。

律法は、人間に罪を示すが、救いは与えない。律法は、服従する者には生命を約束するが、犯す者には死を宣告する。人間を罪の宣告や罪の汚れから解放することができるのは、キリストの福音だけである。人間は、神の律法を犯したのであるから、神に向かって悔い改めなければならない。そして、キリストに対しては信じてその贖いの犠牲を受け入れなければならない。こうして人間は、『今までに犯した罪のゆるし』を受け、神の性質にあずかる者となる。彼は、子たる身分の霊を授けられた神の子であるから、『アバ、父よ』と呼ぶのである。」(各時代の大争闘下巻195)

#### 3. 恵みが注ぎだされた

a. わたしたちは律法への自分たちの従順によって義認されることはできないので、神の御前で義認される唯一の方法は何ですか(ローマ人への手紙 3:21-25)。

「キリストの着せられる義は、義認する信仰を通してもたらされる。そして、それはパウロがあれほど真剣に苦闘した義認なのである。彼は次のように言った、〔ローマ 3:20-31 引用〕。

恵みは値しない者への恩寵であり、信徒は自分自身の功績や、神に主張できるものを何も持たずに義認される。彼はキリスト・イエス、すなわち天の法廷で罪人の身代わり、また保証人として立っておられるお方のうちにある贖いを通して義認される。しかし、キリストの功績のゆえに義認される一方で、信徒は自由に不義を働くのではない。信仰は愛によって働き、魂をきよめる。信仰は芽吹き、花咲き、尊い実の収穫を結ぶ。…キリストと信徒は一つになり、このお方のご品性の美しさが力と愛の源であられるお方と命のつながりを持っている人々のうちに表される。キリストは義認する義と聖化する恵みの大いなる保管人であられる。」(セレクテッド・メッセージ1巻397,398)

b. どのようにして神は義であられると同時に、罪人を義認することがおできになりますか (ローマ人への手紙 3:26; コリント人への第二の手紙 5:19, 21)。

「イエスを通して、神のあわれみが人類にあらわされた。だがあわれみは義を無視しない。律法は、神のご品性の特質をあらわしているので、その一点一画も、堕落した状態にある人間に合うように変えることはできない。神は律法を変更しないで、人のあがないのためにキリストを通して犠牲を払われた。…

律法は義、すなわち正しい生活、完全な品性を要求する。しかし人はそれを与えることができない。彼は神の聖なる律法の要求に応ずることができない。けれどもキリストは、人としてこの地上においでになって、聖なる一生を送り、完全な品性を発達させられた。これらのものを、キリストは受け入れる人にはだれにでも無料の贈り物として提供される。キリストの一生は人の一生の代りとなる。こうして人は、神の寛容によって、過去の罪をゆるされるのである。のみならずキリストは、人のうちに神の属性をうえつけてくださる。キリストは人の品性を神のご品性にかたどって、霊的な力と美しさを備えたりっぱな織物としてくださる。こうして律法の義そのものが、キリストを信ずる者のうちに成就されるのである。『神みずからが義となり、さらに、イエスを信じる者を義とされるのである』(ローマ3:26)。」(各時代の希望下巻288,289)

#### 4. 信仰による義認

a. パウロは神の御前でのわたしたちの義を説明したのちに、どのような結論に達しましたか (ローマ人への手紙 3:20, 28; ガラテヤ人への手紙 2:16)。

「わたしたちは、律法の規則によって啓発される。 しかし、だれ一人としてそれによって義認されることはない。量られて足りないことが表れるのが、わたしたちの生来の天での登録である。しかし、キリストがわたしたちの仲保者であられ、このお方をわたしたちの救い主として受け入れるとき、次の約束をわがものと主張できる、『わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている』(ローマ5:1)。」(天国で156)

b. 信仰によって義認された人々に何が起こりますか (ローマ人への手紙 3:21; 5:5)。

「キリストは罪びとの弁護人である。キリストの福音を受け入れる人々は、顔おおいなしに彼を見る。彼らは彼の働きと律法の関係を見、救い主によって啓示されているところの、神の知恵と栄光を認める。キリストの栄光は律法のうちに啓示されている。それは彼のご品性の写しであり、彼の改変の効力は人々が彼に似た者に変えられるまで魂に感じられるのである。彼らは神の性質にあずかる者とされ、彼らの救い主に似た者へとますます成長していき、ついに完全に達するまで、神の御心を確実に行って一歩一歩前進していく。

律法と福音は完全に調和していて、互いに支えあっている。律法は威厳をもって良心に立ち向かい、罪人に罪のための贖罪としてのキリストの必要を感じさせる。福音は律法の権威と不変性を認める。『律法によらなければ、わたしは罪を知らなかったであろう』とパウロは述べている。律法によってもたらされる罪意識は、罪人を救い主の所に連れて行く。自分の必要から、人はカルバリーの十字架によって備えられた力強い要求を示すことができる。彼はキリストの義を主張することができる。それはすべての悔い改めた罪びとに与えられるからである。」(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント ] 6 巻 1096)

c. 罪人はどのような種類の信仰によって義認されますか (ローマ人への手紙 1:17; ガラテヤ人への手紙 5:6)。

「愛によって働き、心を清める信仰を求めよう。そうすればわれわれはキリストのご品性を世界に表すことができる。」(クリスチャン教育 93)

#### 5. 新しい契約

a. 恵みの契約 (新しい契約) にはどの約束が含まれていますか (ヘブル人への手紙 8:6.10-13)。

『新しい契約』は、『さらにまさった約束』によるもので、罪のゆるしの約束と、心を新たにする神の恵みと、神の律法の原則に心を一致させる約束によるのである。〔エレミヤ書 31:33、34 引用〕。

石の板に刻まれたのと同じ律法が、聖霊によって心の板に書かれるのである。自 分自身の義を確立させようと努力するかわりに、われわれは、キリストの義を受け 入れる。キリストの血がわれわれの罪を贖うのである。キリストの服従が、われわ れに代わって受け入れられる。こうして、聖霊によって新しくされた心は『御霊の実』 を結ぶのである。キリストの恵みによって、われわれは心に書かれた神の律法に従 って生きるのである。キリストのみ霊を持っているから、彼が歩かれたように歩くの である。」(人類のあけぼの上巻 442, 443)

b. 神の律法は、いつわたしたちの心に書かれますか (ローマ人への手紙 5:1-5; 詩 篇 40:8)

「十字架から輝いている光は神の愛をあらわしている。神の愛はわれわれをみもとにひきよせている。このひきよせる力にさからわなければ、われわれは救い主を十字架につけた罪を悔いて十字架の下にみちびかれる。その時神のみたまは、信仰を通して魂に新しいいのちを生じさせる。考えること望むことはキリストのみこころに服従させられる。心と思いは、『万物をご自身に従わせ』るためにわれわれのうちに働かれるキリストのみかたちに新しくつくられる(ピリピ 3:21)。その時神の律法は心と思いにしるされ、われわれはキリストとともに、『わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます』と言うことができる(詩篇 40:8)』(各時代の希望上巻 207, 208)

金曜日 1月7日

#### 個人的な復習問題

- 1. 今日の世界において、なぜわたしたちは道徳的純潔さについて非常に警戒する 必要があるのですか。
- 2. 神の律法の目的は何ですか。
- 3. キリストのカルバリーでの苦しみは、わたしの人生にどのような影響を及ぼすべきですか。
- 4. なぜわたしたちは救い主をそれほど必要としているのですか。
- 5. わたしは新しい契約における命をどのように生きることができますか。

### 義認一着せられた義

暗唱聖句:「なぜなら、聖書はなんと言っているか、『アブラハムは神を信じた。それによって、彼は義と認められた』とある。」(ローマ人への手紙 4:3)

「わたしたちが義とされるのはキリストによって着せられる義によってであり、わたしたちが清められるのは、キリストを通して与えられる義によるものである。前者は天国にはいるわたしたちの資格である。」 (青年への使命 22)

推奨文献: セレクテット・メッセージ 1 巻 389-398

日曜日 1月9日

- 1. 信仰によって義と認められたアブラハム
- a. 神の御前でアブラハムはどのように義と認められましたか、彼の信仰について何と書かれていますか (ローマ人への手紙 4:1-3; ヘブル人への手紙 11:8-10)

「〔恵みの〕契約は、アブラハムにくり返されて、『地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう』という約束が与えられた(創世記 22:18)。この約束はキリストを指示したものであった。アブラハムは、このことを理解し(ガラテヤ 3:8, 16 参照)、キリストにたよって罪のゆるしを求めた。彼が義と認められたのはこの信仰であった。」(人類のあけぼの上巻 439, 440)

「アブラハムの絶対服従は、全聖書を通じて見られる最も驚くべき信仰の例証 の一つである。彼にとって、信仰とは、『望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認すること』であった(ヘブル 11:1)。彼は、神の約束の成就に対する外見上の何の保証もないまま、神の約束にたよって、どこへ行くのかも知らずに、家や親族、故郷を捨てて神がお導きになる所に従おうとして出て行った。」(同上 122, 124)

b. アブラハムの最も厳しい信仰の試練について述べなさい (ヘブル人への手紙 11:17-19)。

「試練は、アダムに臨んだものよりははるかにきびしいものであった。……全天は驚嘆と賞賛をもって、アブラハムの断固とした服従を見守った。全天は彼の忠誠に 賛嘆の声をあげた。」(同上 162)

- 2. 信仰によって義と認められたダビデ
- a. バテシバとウリヤに対する罪の後、ダビデは主にどのような祈りを捧げましたか(詩 篇 51:1-4; 32:1-5)。
- b. 預言者ナタンがダビデに彼の罪の非道さを示した時、ダビデはどのように反応しましたか (サムエル記下 12:13 (上句))。 その後主は預言者を通してどのようにお答えになりましたか (サムエル記下 12:13 (下句))。
- c. 使徒パウロは悔い改めた後のダビデの経験について何を明らかにしていますか (ローマ人への手紙 4:5-7)。

「ダビデは、心から深く悔い改めた。彼は、自分の罪の弁解をしようとはしなかった。彼は、自分に下る刑罰からのがれようと望まずに、神に祈りをささげた。しかし、彼は、神に対する自分の罪の大きさを認めた。彼は、自分の心の汚れを悟った。彼は、自分の罪を嫌悪した。彼が祈ったのは、ただ許されることだけでなくて、心が清められることであった。ダビデは、絶望して苦闘を放棄することをしなかった。悔い改める罪人に対する神の約束の中に、許されて受け入れられる証拠を彼は見たのである。…

ダビデは倒れたのであるが、主は彼を起こされた。彼は、堕落する以前よりももっと神と調和し、同胞と心を一つにするようになった。…

ダビデの生涯の中のこのできごとは、悔い改める罪人にとって、非常に重大である。これは、人類の苦闘と誘惑、そして、神に対する悔い改めと、われらの主イエス・キリストに対する信仰に関して与えられた最も感銘深い例の一つである。これは、各時代を通じて、堕落して罪の重荷にあえぐ魂を鼓舞してきたのであった。罪に負け、今にも絶望に陥ろうとした神の子供たちの多くは、ダビデが罪に苦しんだとは言え、真心からの悔い改めと告白によって、神に受け入れられたことを思い出したのである。そして、彼らもまた勇気づけられて、悔い改め、神の戒めの道を歩もうと、ふたたび試みたのである。…

主は、真に悔い改める魂をひとりでもお捨てにならない。(人類のあけぼの下巻 428-430)

- 3. 義と認められるのはバプテスマの前か後か
- a. アブラハムが信仰によって義と認められたのは割礼の前でしたか、それとも割礼 の後でしたか (ローマ人への手紙 4:8-10)。
- b. 割礼の目的は何でしたか (ローマ人への手紙 4:11)。 何がバプテスマの目的ですか (ペテロの第一の手紙 3:18, 21)。

「アブラハムは、『無割礼のままで信仰によって受けた義の証印』として割礼を受けた(ローマ 4:11)。割礼は、アブラハムとその子孫が、自分たちを神の奉仕にささげて偶像礼拝者から離れ、そして、神が彼らを神の特別の宝としてお受けになったことのしるしとして、守るべきものであった。彼らは、この儀式を行なうことにより、アブラハムに与えられた契約の条件を彼らの側で成就することを誓うのであった。彼らは、異邦人と結婚してはならなかった。なぜなら、そうすることによって、彼らは、神とその清い律法に対する尊敬を失い、他の国々の罪の習慣に誘惑され、偶像礼拝に陥るからである。」(人類のあけぼの上巻 140)

「キリストの復活は、われわれがバプテスマを受けて、彼と共に葬られ、彼の復活の様に従って水の墓から起き上がり、新しい生涯に入ることによって記念されている。」(初代文集 360)

「キリストはバプテスマをご自分の霊的な王国に入るしるしとなさった。このお方はこれを御父、御子、聖霊の権威の下にあると認められることを望むすべての人が応じなければならない明白な義務となさった。人が教会に自分の家庭を見出すことができる前に、神の霊的な王国の敷居をまたぐ前に、神聖な名の印章、すなわち『主はわれわれの正義』を受けなければならない(エレミヤ 23:6)。

バプテスマは最も厳粛な世の放棄である。御父、御子、聖霊の三重のみ名のうちにバプテスマを受ける人々は、自分たちがクリスチャン生活に入るちょうどその時に、公に、自分がサタンに仕えることをやめ、王家の一員、天の王の子となったことを宣言するのである。彼らは次の命令に従ってきた、『彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ…そして、汚れたものに触れてはならない』。そして、彼らに次の約束が成就するのである、『触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう』(コリント第二 6:18)。」(教会への証 6 巻 91)

- 4. 信仰によって成就された約束
- a. 神はどのような根拠に基づいてアブラハムへの約束を果たされましたか (ローマ 人への手紙 4:13)。

「アブラハムに対してなされた約束は、キリストによって成就されることを、聖書は明らかにしている。キリストにある者はみな、『アブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである』。すなわち、罪ののろいの取り去られた地の『朽ちず汚れず、しぼむことのない資産を受け継ぐ』相続人である(ガラテヤ 3:29、ペテロ第一 1:4)。『国と主権と全天下の国々の権威とは、いと高き者の聖徒たる民に与えられる』『柔和な者は国を継ぎ、豊かな繁栄をたのしむことができる』(ダニエル書 7:27、詩篇 37:11)。」(人類のあけぼの上巻 179)

b. アブラハムの信仰について、他に何が記されていましたか (ローマ人への手紙 4:18-22)。

「ザカリヤに息子が生れることによって、アブラハムの子の誕生やマリヤの子の場合と同じように、とうとい霊的な真理、すなわちわれわれが学ぶのに手間どり、また学んでもすぐ忘れがちな真理が教えられるのであった。われわれは自分自身では何もよいことをすることができない。しかしわれわれのできないことが、神の力によって、すなおな信ずる魂のうちになされるのである。約束の子が与えられたのは信仰によってであった。霊的生命が生まれ、われわれが義のわざをすることができるのは信仰によってである。」(各時代の希望上巻 97)

c. これらの事実からわたしたちが得る最大の教訓は何ですか (ローマ人への手紙 4:23-25)。

「心に割礼を施されるのは神であられる。働き全体は、始めから終わりまで主のものである。滅びつつある罪人は次のように言うことができる、『わたしは失われた罪人である。しかしキリストは失われた者を探し、救うために来られたのである。このお方は「わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである』と言われる。わたしは罪人である、そしてこのお方はわたしを救うためにカルバリーの十字架上で死なれた。わたしは一瞬たりとも救われないままでいる必要はない。このお方はわたしの義認のために死なれ、またよみがえられた。そしてこのお方は今、わたしを救われるのである。わたしはこのお方が約束された許しを受け入れる。」(セレケテッド・メッセージ 1 巻 392)

木曜日 1月13日

#### 5. わたしたちの義認に不可欠な信仰

a. 聖書的な信仰の定義は何ですか (ヘブル人への手紙 11:1)

「信仰は神が許しを約束されるのにふさわしいとごらんになった条件である。信仰のうちに救いに値する徳が何かあるからではなく、信仰がキリストの功績、すなわち罪のために備えられた治療法をつかむことができるからである。信仰はキリストの完全な従順を、罪人の不法や背信の代わりに提示することができる。キリストが自分の個人的な救い主であることを罪人が信じるとき、そのとき、このお方の間違いのない約束に従って、神は彼の罪をゆるし、彼を無償で義としてくださるのである。悔い改めた魂は、自分の身代わりであり保証人としてキリストが自分のために死なれ、このお方が自分の贖罪であり義であられるがゆえに、自分の義認がもたらされることを悟るのである。」(信仰と行い 100, 101)

b. 何が信仰と憶測の間の大きな違いですか (エペソ人への手紙 2:8; ガラテヤ人へ の手紙 5:6; ヤコブの手紙 2:17)。

「わたしたちは服従によって救いを買うのではない。救いは神から価なしに与えられる賜物であって、信仰によって受けるのである。[ヨハネ第一3:5,6引用]。これがほんとうの試金石である。もし、わたしたちがキリストにあり、神の愛がわたしたちの心に内住するならば、わたしたちの感情も、思想も、行動も、神のきよいおきてに現わされた神のみ心に調和するようになる。[ヨハネ第一3:7引用]。義とは、シナイ山で与えられた十戒に現わされた神の聖なる律法の標準によって定められるものである。

キリストを信じれば神に服従する義務はないという、いわゆる信仰は、信仰ではなく、臆測である。[エペソ 2:8; ヤコブ 2:17 引用]。(キリストへの道 79, 80)

金曜日 1月14日

### 個人的な復習問題

- どのようにもっとわたしの信仰がアブラハムのようになることができますか。
- 2. どのようにもっとわたしの悔い改めがダビデのようになることができますか。
- 3. 何がバプテスマの誓いを立てる人の経験ですか。
- 4. なぜわたしたちの罪深い生活を救い主にお委ねするのを遅らせるべきではないのですか。
- 5. どのようにわたしは何らかの形の憶測に陥る危険にさらされる危険性がありますか。

# 信仰の実

暗唱聖句:「このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。」(ローマ人への手紙 5:1, 2)

「神のみ霊が思いと心を支配すると、改心した人は新しい歌をうたいだす。それは神のみ約束が彼の経験の中で成就されたからであり、彼の不義は許され、罪がおおわれたからである。彼は、神の律法を犯したことを神に対して悔い改め、人を義とするために死なれたキリストを信じたのである。」(患難から栄光へ下巻 170)

推奨文献: セレクテット・メッセージ 1 巻 345-349

日曜日 1月16日

- 1. 信仰によって許される
- a. 義認とはなんですか、そしてなぜそれが不可欠なのですか (マタイによる福音書 9:2: ローマ人への手紙 5:1)。

「許しと義認は一つであって同じ事である。信仰によって信者は反逆者、罪とサタンの子供という立場から、イエス・キリストの忠実な臣下の立場へと移る。それは生まれつきの善の故にではなく、キリストが養子縁組によりその人を彼の子供としてくださったからである。罪びとは罪の許しを受ける。彼らの罪の身代わり、また保証人であられるお方が負ってくださったからである。」(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 6巻1070)

「信仰による義認とは何であろうか。それは人間の栄光をちりに伏させ、人間が自分の力では自分のためにできないことをしてくださる神のみわざである。」(牧師への証 456)

b. 何が信仰によって義と認められた人々の希望ですか (ローマ人への手紙 5:2)。

「豊かな恵みが、信じる魂を罪のない状態に保つことができるために備えられてきた。全天はその無限の資源と共に、わたしたちの意のままに備えられている。わたしたちは救いの井戸から汲まなければならない。」(セレクテッド・メッセージ1巻394)

#### 2. 黒難の目的

a. なぜ神はご自分の民に患難が訪れるのを許されるのですか (ローマ人への手紙 5:3, 4; テサロニケ人への第二の手紙 1:4)。

「神が試練と苦悩とをゆるされる時は、『わたしたちの益のため、そのきよさにあずからせるため』である(ヘブル 12:10)。耐えがたく思われる試練も、信仰をもって受けるならば、祝福であることがわかる。この世の喜びを砕く残酷な一撃も、わたしたちの目を天に向ける手段となる。悲しみが彼らを主にある慰めに導かなかったならば、イエスを知らないでしまう人がどんなに多いことであろう。

生涯の試練は、わたしたちの品性から不純で粗野なものを取り去る神の職人である。切り出され、角材とされ、削られ、刻まれ、磨かれるのは苦しい工程である。といし車におしつけられるのはつらいことである。しかしこうして石は天の神殿に置かれるように整えられるのである。主は無用の材料に対しては、こんなに注意深い、行き届いた手間をかけられない。主の尊い石のみが宮の型にならって磨かれるのである。」(祝福の山12,13)

b. 義認の後わたしたちの心にどのように神の律法が書かれますか (ローマ人への手紙 5:5 (ヘブル人への手紙 8:10 と比較しなさい))。何がわたしたちの生活に見られるようになりますか (マタイによる福音書 6:33)。

「キリストを受け入れることによって、人間に価値が与えられる。このお方の犠牲はキリストを自分の個人的な救い主として受け入れるすべての人に命と光をもたらす。神の愛は、イエス・キリストを通して、このお方の体のすべての肢体である人の心に広く降り注がれ、それと共に父なる神の律法の命を携えていく。こうして神は人と共に住み、人が神と共に住むことができる。」(セレクテッド・メッセージ1巻299,300)

「キリストの御国はすべての他の関心に勝っているべきである。わたしたちの心のうちに記される神の律法は、自分自身の関心を、より高い永遠の関心事に従属させる。」(パイプルエコー 1895 年 12 月 9 日)

c. どのように神はわたしたちに対するご自分の愛を十分に立証なさいましたか (ローマ人への手紙 5:7, 8)。

「キリストの着せられた義を通して、わたしたちを義とされたあと、神はわたしたちを義人だと宣言され、義人として扱ってくださる。」(セレクテッド・メッセージ1巻394)

- 3. キリストの血による和解
- a. どのようにイエスは罪びとに対する律法の怒りからわたしたちを救い出してくださいますか (ローマ人への手紙 4:15; 5:9)。

「神はキリストをわたしたちの贖いの供え物として信じる信仰を要求しておられる。 キリストの血は罪に対する唯一の治療手段である。

あなたが罪深く無価値な者であるので、神はあなたを受け入れて下さらないだろうと恐れて不信の念を抱いたり心を苦しめることは、神の御心ではない。……あなたはこのように言うことができる。『わたしは自分が罪人であることを知っている。それゆえにわたしは救い主を必要とする。……わたしは救いを求める何の功績も善なるものもない。しかしわたしは神の前に世の罪を取り除く神の傷なき小羊の血をささげる。これのみがわたしの願いである』。」(信仰によってわたしは生きる102)

「神はイエス・キリストを通じて罪深い、堕落した人類に手をさし伸べて招いておられる。神はすべての者を受け入れ、、歓迎される。最も罪深い者をおゆるしになることは神の栄えである。神は強大な敵から獲物をとって、虜を救い、火の中から燃えぐいをとり出される。悲惨のどん底に沈んだ人間に情深い金の鎖をおろし、罪に汚れた、いやしい魂を引き上げられる。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 135, 136)

「魂に対する神の啓示はすべて、知る能力と愛する能力を増し加える。魂は『もっとあなたを』と叫びつづける。すると、聖霊はいつも『さらに豊かに』。」(祝福の山 25)

b. どのようにして主はわたしたちとご自分との和解を可能にしてくださいますか(ローマ人への手紙 5:10, 11; エペソ人への手紙 2:13, 14, 16)。

「罪の恐ろしさを知り、自分自身をありのまま見つめるとき絶望してはならない。キリストは罪人を救うためにおいでになった。わたしたちは、なにも自分で神とやわらぐのではない。— ああ、なんと驚くべき愛であろう。神はキリストによって、『世をご自分に和解させ』られた(コリント第二5:19)。神は優しい愛をもって、道に迷った神の子らの心を求めておられる。いかなる世の中の親であっても、子供らの失敗やあやまちを神が救おうとされる人々を忍びたもうほどに忍ぶことは、とうていできない。だれも、これほどのやさしさをもって、罪を犯した者に訴えることはできない。また、これほどやさしく迷える者を呼び返そうとした者はない。神のみ約束もご警告もみな、言葉では表わすことのできない愛の息吹きにほかならないのである。」(キリストへの道42,43)

#### 二人のアダム

a. どのようにしてパウロは第一のアダムと第二のアダムを比較しましたか (ローマ人 への手紙 5:12-14; コリント人への第一の手紙 15:22, 45-47)。

「サタンは第一のアダムをエデンで誘惑し、アダムは敵と論じたために、彼を有利にした。サタンは、アダムとエバに自分の催眠術の力を働かせた。そして、彼はこの力をキリストに対しても働かせようと奮闘した。しかし、聖書の言葉が引用された後、サタンは自分に勝ち目がないことを知った。」(思い、品性そして個性2巻713)

「罪のために、人間だけでなく、地も悪者の支配下に陥った。そして、地も贖罪の計画によって、回復されなければならなかった。アダムは、創造されたときに、地の統治者としておかれた。ところが、誘惑に負けたためにサタンの支配下におかれた。

『おおよそ、人は征服者の奴隷となるものである』(ペテロ第二 2:19)。人間がサタンの捕虜になったとき、彼の統治権は、征服者の手に移った。こうして、サタンは『この世の神』(コリント第二 4:4) となった。彼は、初めアダムに与えられた地の統治権を彼から奪った。しかし、キリストはご自分の犠牲によって、罪の罰を払い、人間を贖うばかりでなくて、人間が失った統治権をも回復してくださるのであった。第一のアダムによって失われたものはぜんぶ、第二のアダムによって回復されるのである。」(人類のあけぼの上巻 59)

b. どなたの義がすべての悔い改めた罪人を義と認めますか (ローマ人への手紙 5:15-18)。

「アダムとエバが自分たちの不従順によって世界に死をもたらしたのち、人類のために高価な犠牲が備えられた。彼らがもともと持っていたよりも高い価値が彼らの上におかれた。神はご自分のひとり子、キリストを、世のあがない代として与えることによって、全天を与えて下さったのである。」(セレクテッド・メッセージ1巻299)

c. パウロはわたしたちの以前の状態について何を確認しましたか、また何がわたしたちが神の御目に義とされる唯一の方法ですか(ローマ人への手紙 5:19)。

「キリストの血だけがわたしたちのための贖いをなすことができる。このお方の恵みだけがわたしたちの内に清い心を創造することができ、神の律法への従順を可能にする。このお方の内にわたしたちの唯一の希望がある。」(サインズ・オブ・ザ・タイム ズ1891年2月9日)

#### 5. 豊かな恵み

a. わたしたちが自分の罪の深さについてどれほど圧倒されていると感じるかに関係なく、わたしたちがつかむ特権があるのはどのような希望ですか (ローマ人への手紙 5:20)。

「あがないの働きは完成される。罪の充満していたところに神の恵みがもっと充満する。サタンが自分の働き場所として主張していたこの地上そのものも、ただあがなわれるばかりでなく、また高められるのである。罪ののろいのために神の輝かしい創造における一つの汚点となっていたわれわれのこの小さな世界が、神の宇宙のどんな他世界にもまさってあがめられる。神のみ子が人のかたちをとり、栄光の王が生活し、苦難を受け、死なれたこの地上一ここに神が万物を新たにされる時、『神の幕屋が人とともにあり、神が人とともに住み、人は神の民となり、神みずから人とともにいま』すのである(黙示録 2:3)。そして永遠にわたって、あがなわれた者は、神の光の中を歩むとき、言いあらわしようのない神の賜物であられるインマヌエルー神われらと共にいます一について神を賛美するのである。」(各時代の希望上巻 13)

「神の愛を通して、キリストの恵みという宝が教会と世の前にあらわにされてきた。『神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである』(ヨハネ 3:16)。わたしたちがまだ罪人であった時に、わたしたちのために死なれるようキリストを導いた、なんと驚くべきはかり知れない愛であろう!そして、律法の強い要求を理解しながら、罪の増し加わるところには、恵みもますます満ちあふれることを認めない魂は、なんという損失をこうむることであろう!」(福音宣伝者 157)

b. 恵みの最終的な報いは何ですか (ローマ人への手紙 5:21)。

金曜日 1月21日

#### 個人的な復習問題

- なぜ義認が重要なのですか。
- 2. なぜすべての人が患難に直面する必要があるのですか。
- 3. 当惑し、悩んでいる世界においてキリストの福音はどのような希望をもたらしますか。
- 4. 二人のアダムを比較対象しなさい。
- 5. 良心の呵責に苦しむとき、わたしは何を覚えておく必要がありますか。

### もはや罪の奴隷ではない

暗唱聖句:「なぜなら、あなたがたは律法の下にあるのではなく、恵みの下にあるので、罪に支配されることはないからである。」(ローマ人への手紙 6:14)

「キリストの贖いは、われわれの罪が許されるための単なる技術的な方法ではない。それは不義の癒しと霊的健康の回復のための神の治療法である。それはキリストの義がわれわれの上に着せられるだけではなく、われわれの心と品性の内に宿る、天が定めた方法である。」(SDA パイプル・コメンクリ [E・G・ホワイト・コメント] 6巻 1074)

推奨文献: ローマ6章(全体);

サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898年1月27日、

2月3日「キリストを知って」

日曜日 1月23日

- 1. 義認における神の力
- a. 悔い改めた罪人が義と認められるとき、何が起こりますか (マタイによる福音書 6:12: ヨハネによる福音書 1:12. 13)。

「悔い改める者にはゆるしがある。キリストは『世の罪を取り除く神の小羊』であるからである。神の約束は『たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。』『わたしは新しい心をあなたがたに与え…わが霊をあなたがたのうちに置』くのである(イザヤ書1:18, エゼキエル書36:26,27)。」(祝福の山9,10)

「神の許しは、罪の宣告からわたしたちを解放する法的行為であるばかりではない。それは罪の許しであるだけでなく、わたしたちを罪から救うことである。心を変えるものは、あふれでる贖罪的愛である。」(同上 143)

「キリストを罪を許す救い主として受け入れる人々は、このお方の光の衣を着せられる。このお方は彼らの罪を取り除き、ご自分の義を与えて下さる。彼らの喜びは満ちる…

真に改心する人は、非常に神の愛に満たされ、自分自身が持っている喜びを他の人々にも与えたいと切望するようになる」。(原稿リリース 13 巻 212)

- 2. 罪に死に、キリストに生きる
- a. 信仰によって義とされた後、わたしたちは罪の内に自由に生きることができますか (ローマ人への手紙 6:1, 2)。

「真理に忠実に従うことによって、彼らはその招きと選びとを確かなものにしていかなければならない。」(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] [6 巻 1115)

b. バプテスマは実際に何を象徴していますか (ローマ人への手紙 6:3-5)。

「キリストの復活は、われわれがバプテスマを受けて、彼と共に葬られ、彼の復活の様に従って水の墓から起き上がり、新しい生涯に入ることによって記念されている。」(初代文集 360)

「神の息子むすめであるすべての人は、不信心と世の欲を否定する。自分の立場を主の側におくすべての人は、真のぶどうの木の枝として栄養を受け、同様の実を結ぶようにぶどうの木によって刺激を受ける。彼らは新しいいのちに生きることによって信心へ至るよう自らを働かせる自分の能力に従って、神と協力する。すなわち、日々神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエス・キリストに対する信仰である。」(レピュー・アンド・ヘラレト 1897 年 2 月 23 日)

c. いつ信徒は、罪に死ぬのですか (コリント人への第二の手紙 5:14; ローマ人への 手紙 6:6)。 どのように彼また彼女はこの経験を保つことができますか (ローマ人 への手紙 6:11-13; コリント人への第一の手紙 15:31)。

「パウロの聖化は自己とのたえざる戦いの結果であった。彼は言った、『わたしは日々死んでいる』(コリント第一15:31)。彼の意志と彼の願望は毎日、義務や神のみ旨と戦った。傾向に従うより、パウロは神のみ旨が、どれほど自分自身の性質にとって十字架につけるものであっても、それを行った。」(教会への証8巻313)

「あなたがバプテスマを受けて、水の墓から上がった時、あなたは自分が死んだことを告白したのであり、あなたの命は変えられ、キリストと共に神の内に隠されたということを宣言したのである。あなたは罪に死んだこと、そして先天的、後天的悪の性質から清められたと公言したのである。あなたはバプテスマを受けることによって、罪に死んだ状態であることを神の前で自ら誓約した。それゆえあなたの口は清められた口のままでいるべきであり、あなたの舌は変えられた舌のままでいるべきであった。あなたは神のいつくしみを語り、その聖なるみ名を讃美すべきであった。このようにしてあなたは教会のために大きな助けとなり、祝福となるはずであった。」(SDA パイプル・コメンクリ [E・G・ホワイト・コメンクリ 7巻 908)

#### 3. 保証された勝利

- a. 罪と自己の死には何が含まれていますか (ローマ人への手紙 6:15-18; コロサイ 人への手紙 3:1-5; 8-10)。
- b. わたしたちの愛情はどこに集中すべきですか (コロサイ人への手紙 3:2; ヘブル人 への手紙 12:2)。

「もし苦難によって、天国が得られるとするならば、それはまことに安価なものである。われわれは常に自己を否定し、日毎に自己に死に、イエスだけをあらわすようにし、絶えず彼の栄光を心に留めていなければならない。」(初代文集 143)

「もし今日神のみことばを教えている人々が、キリストの十字架をいよいよ高くかかげるならば、その伝道はもっと大きく成功するのである。もし罪人にひとたび十字架を熱心に見させることができるならば、もし彼らが十字架につけられた救い主についての全貌を知り得たら、彼らは神の深いあわれみと自分の罪の深さとを認めるようになるであろう。」(患難から栄光へ上巻 225)

c. イエスの力の内に確実に罪に勝利することができるというどのような保証が与えられていますか (ローマ人への手紙 6:14; ヨハネの第一の手紙 5:4; コリント人への第一の手紙 15:57)。

「自分自身の力では、われわれの堕落した性質のやかましい要求をこばむことができない。この道から、サタンは試みをもってやってくる。キリストは敵が、遺伝的な弱点に乗じ、神に信頼をおいていない人々をいつわりのほのめかしによって、わなにおとし入れるためにどの人のところにもやってくることをご存じであった。そこで主は、人の通らねばならない道を自らお通りになって、われわれが勝利する道をお備えになった。サタンとの戦いにわれわれが不利な立場に立つことは主のみこころではない。主はわれわれが蛇の攻撃におびえたり落胆したりすることを望まれない。『勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている』と主は言われる(ヨハネ16:33)。

食欲の力と戦っている者は試みの荒野における救い主を見なさい。『わたしは、かわく』と叫んで、十字架上に苦しまれたイエスを見なさい(ヨハネ 19:28)。彼はわれわれが耐えることのできるすべてのことに耐えられた。彼の勝利はわれわれのものである。

イエスは天父の知恵と力にたよられた。彼は、「主なる神はわたしを助けられる。それゆえ、わたしは恥じることがなかった。』(イザヤ書 50:7)。」(各時代の希望上巻 134)

- 4. 罪の奴隷 対 義の奴隷
- a. どのようにわたしたちはキリストがなさったように勝利することができますか (ペテロの第二の手紙 1:4)。

「『この世の君が来るからである。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない』とイエスは言われた(ヨハネ 14:30)。イエスの中にはサタンの詭弁(きべん)に応ずるものは何もなかった。イエスは罪に同意されなかった。一つの思いにおいてさえ、彼は試みに負けたまわなかった。われわれもそうなれるのである。キリストの人性は神性と結合していた。イエスは聖霊の内住によって戦いに備えられた。しかもイエスはわれわれを神のご性質にあずかる者とするためにおいでになったのである。われわれが信仰によってキリストにつながっているかぎり、罪はわれらの上に権をとることはできない。神はわれわれが品性の完全に到達できるように、われらの中にある信仰の手を求め、それをみちびいてキリストの神性をしっかり把握(はあく)させてくださるのである。」(各時代の希望上巻 135)

「わたしたちは、キリストが人間とへびの間におかれた恨みを受け入れないだろうか。」(彼を知るために 16)

b. 神から離れたときの人間の状態をパウロはどのように述べましたか (エペソ人への 手紙 2:1-3; ローマ人への手紙 6:20, 21)。しかしわたしたちがキリストに明け渡 した時、何が起こりますか (ローマ人への手紙 6:19, 22, 23)。

「サタンは不従順な子らに働き、彼らの思いに近づくだけでなく、意識的にも無意識的にも彼らの影響を通してすべての人々を同じ不従順に引き入れようとしている。」(セレクテッド・メッセージ1 巻 118)

「魂がキリストに屈服するとき、新しい力が新しい心を占領する。人が自分自身ではなしとげることのできない変化が行われる。それは超自然の働きであって、人の性質に超自然の要素をもたらす。キリストに屈服した魂は、キリストご自身のとりでとなり、キリストはそれをそむいた世の中に保たれる。キリストはその中でご自身の権威よりほかの権威がみとめられないように望まれる。このように天の勢力によって占領された魂はサタンの攻撃に攻め落されることがない。しかしわれわれは、キリストの支配に服していないときに、悪魔に支配される。われわれはこの世の主権を争っている二大勢力のどちらかに必然的に支配されるのである。暗黒の王国の支配にはいるためには、わざわざその国の奉仕をえらぶ必要はない。光の王国と同盟することをおこたりさえすればよいのである。もしわれわれが天の勢力と協力しなければ、サタンは心を占領してそこを永住の地とする。」(各時代の希望中巻 41, 42)

#### 5. 永遠の命の賜物

a. 辛抱強くキリストを信じている人々に何が約束されていますか (コロサイ人への手紙 1:21-23; ローマ人への手紙 6:23 下句))。

「わたしたちが義に至る従順を行いつつ、イエスに信頼をおくとき、神の御使たちはわたしたちの心のうちに働いて義へいたらせる。」(セレクテッド・メッセージ1 巻 118)

b. ご自分のとりなしの祈りの中でキリストは永遠の命をどのように定義なさいましたか、そしてどのような条件で永遠の命が可能ですか (ヨハネによる福音書 17:3; ヨハネの第一の手紙 5:12, 13, 20)。

「〔ヨハネ 17:3 引用〕。これらの言葉には多くの意味がある。わたしたちが神を知ることができるのは、キリストを知ることによってのみである。神からつかわされたお方は、これらの言葉を聞くようにとすべての人に求めておられる。それらは神の言葉であり、すべての人が注意を払うべきである。なぜなら、それらによって彼らはさばかれることになるからである。救われるようにキリストを知るということは、霊的な知識によって活力を得ること、このお方のみ言葉を実践することである。これがなければ、他のすべては無価値である。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898 年 1 月 27 日)

「神の知識は、永遠に持続するような種類の知識からなっている。」(クリスチャン教育の基礎 392)

「わたしたちはキリストが世の救い主だという意味ではこのお方を知っているが、それはこれ以上の意味をもつ。わたしたちはキリスト・イエスのうちに個人的な知識と経験を持たなければならない。このお方がわたしたちにとってどういうお方であり、またわたしたちがこのお方にとってどういう者であるのかという経験に基づく知識を持たなければならないのである。これはすべての人が必要としている経験である。しかし、わたしがそれをだれかあなた方のために持つことはできないし、またあなた方がわたしのために持つこともできない。わたしたちのためになされるべき働きは、神の聖霊が人間の思いと心に表してくださることによってなされねばならない。心は精錬され、聖化されなければならない。」(この日を神と共に213)

「神を知れば神を愛するようになる。」(各時代の希望上巻 4,5)

#### 個人的な復習問題

- 1. 創造主がわたしの内に新しい心を創造なさるとき、優先事項は何になりますか。
- 2. 新しい心をもつなら、わたしの話し方はどのようなものになりますか。
- 3. わたしが自分の愛情をキリストに注ぎ続けていると、何が起こりますか。
- 4. キリストがおられないなら、わたしの生まれながらの人はどのようなものであり、 わたしが自分の意志をキリストに完全に委ねると、どのような変化がありますか。
- 5. イエスを自分の友また救い主として知ることが、なぜわたしにとって非常に重要 なのでしょうか。

### 第一安息日献金 福祉援助のために

「よくよくあなたがたに言っておく、わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのはすなわちわたしにしたのである」 (マタイ 25:40)。

「イエスはここでご自身を苦しむ人々と同一に見ておられる。飢え渇いていたのは、わたしだったのである。旅人であったのはわたしであった。裸であったのはわたしであった。 牢獄にいたのはわたしであった。 あなたが自分の豊かな食卓で食べ物を楽しんでいたとき、わたし



はあなたから遠くないあばら家や街路で飢えていた。あなたがわたしに対して自分の戸を閉ざしていたとき、あなたの良く飾られた部屋は空いていたが、わたしには自分の頭を横たえる場所がなかった。あなたの衣装部屋は衣類の着替えのスーツの十分な備えで満ち、そこに不必要に資金が浪費されたが、それで困窮している人々に与えることができたはずであった。わたしは快適な衣服に欠乏していた。あなたが健康を楽しんでいたとき、わたしは病気であった。不幸がわたしを牢獄に入れ、かせにつなぎ、わたしの霊をうなだらせ、わたしから自由と希望をうばったとき、あなたは自由に歩き回っていた。イエスはここで、ご自分とご自分の苦しむ弟子たちとの間に存在する一致を、なんと表現していることであろう!このお方は彼らの事情をご自身のものとされる。このお方はご自分を、苦しんでいる本人と同一に見なされるのである。」(福祉伝道 40)

不幸なことに、世界中にいるわたしたちの兄弟の中の多くの人々が、上記で述べられているこれらの小さい者の中にいます。自然災害、エピデミックやパンデミックによって打撃を受けた地域にいる人々の他、多くの人々が内戦、政争、またやもめや孤児が大勢いる他の実際的な社会的悲劇によって生じた激しい貧困のうちに生活しています。世界総会福祉支部は、食物、衣類、健康などの根本的な必要に応じるだけでなく、収入源の選択肢を創出するために働いています。小さい地域ビジネスや農園、パン屋、また学校建設や農機具や種の購入を奨励し、外部の助けに依存せずに、よりよい生活環境を促進する方法を探すことを目的とするすべてです。これは挑戦ですが、神の備えを信じ、また世界中の兄弟からの資金的な援助によって強められています。今日、わたしたちが与えるとき、これらの小さい兄弟たちの「もっとも小さい者の一人」に仕えているのであることを覚えましょう。どうぞ、惜しみなく無私になってください。必要であれば犠牲を払ってください。この献金において自分自身の最善を捧げましょう。こうしてわたしたちが救い主にお会いする特権を得るとき、「あなたはわたしにしたのである」という喜ばしい声を聞く者のうちにいることができるように! 世界総会福祉支部

# 奴隷の身分から成功へ

暗唱聖句:「律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。」(ローマ人への手紙 8:3, 4)

「クリスチャンの生活は古いものを修正したり改良したりすることではなくて、性質が生れ変ることである。自我と罪に対する死があり、まったく新しいいのちがある。」(各時代の希望上巻 202)

推奨文献: SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント ]6巻 [ローマ 7章、8章]

日曜日

1月30日

- 1. 一つの描写
- a. 古代のイスラエルが自分たちの力で神の道徳律に従おうとした時の彼らの状態は、何でしたか (ローマ人への手紙 10:1-3)。

「人々は、自分たちの心の罪深さと、キリストの助けがなくては神の律法を守ることができないことを自覚しなかった。そして、彼らは直ちに神と契約を結んでしまった。」(人類のあけぼの上巻 441)

b. パウロは人類と神の道徳律との関係を説明するためにどのような実際的な図を用いましたか。またわたしたちはその律法の有罪宣告にどのように死ぬことができますか (ローマ人への手紙 7:1-4)。

「あなたの目を他人の不完全さから離し、キリストにしっかりと固定しなさい。砕けた心をもってこのお方の生涯と品性を研究しなさい。あなたはもっと啓発されるだけではなく、生かされる必要がある。それはあなたが自分の前にある祝宴を見ることができ、神の御子の肉と血、すなわちみ言葉を食べ、また飲むことができるためである。善なる命のみ言葉を味わうことによって、また命のパンによって養われることによって、あなたは来るべき世の力を見ることができ、キリスト・イエスにあって新しく造りかえられることができるのである。」(この日を神と共に46)

- 2. 律法ではなく、パウロが死んだ
- a. 道徳律の主な目的は何ですか (ローマ人への手紙 7:7-9)。

「「ローマ 7:7-9 引用〕。 彼は罪のいまわしい姿を見せられて、彼の自尊心は消えてしまい、謙遜になった。彼はもはや、善や功績を自分に帰すことはしなかった。彼は自分を高く評価することを止め、すべての栄光を神に帰した。彼の偉大さを求める野心はなくなった。彼は自分で復讐をすることを望まなくなり、もはやあざけり、無視、さげすみに敏感ではなくなった。彼はもはや地上の結びつき、地位、名誉を求めなかった。彼は自分を高めるために他人を引きずり落とすことをしなかった。彼は穏やかで、謙遜で、柔和な心の低い者になった。それは彼がキリストの学校で教訓を学んだからである。彼はイエスとそのたとえようのない愛を語り一層そのみかたちに似たものへと成長していった。彼はキリストのために魂を勝ち取ることに自分の全エネルギーを傾けた。魂に対する無我の働きのゆえに試練がやってくると彼は祈るのであった。そして彼らに対する彼の愛は増していった。彼の命はキリストと共に神のうちに隠され、彼はその性質の中にある熱情のすべてをもってイエスを愛した。どの教会も彼にとってはいとおしいものであり、一人一人の教会員に関心をもっていた。彼はすべての魂をキリストの血で買い取られたものと見ていたからである。」(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1076)

b. パウロの神の律法に関する初期の経験を述べなさい (ローマ人への手紙 7:10-12)。

「使徒パウロは、自分の経験から改心をもたらす働きについて重大な真理を示している。彼はこう言っている。『わたしはかつては律法なしで生きていた』―彼は何の罪のとがめも感じていなかった『が、戒めが来るに及んで』、神の律法が彼の良心を促すと、『罪は生き返りわたしは死んだ』。すると自分は神の律法に罪を宣告された罪人であると知った。死んだのは律法ではなくパウロであったことに注目しよう。」(同上)

- c. 律法と罪人の間の戦いを説明しなさい (ローマ人への手紙 7:13-17)。
- d. 自分の義を求める肉の思いとの苦闘について述べなさい (ローマ人への手紙 7:18-21)。

#### 3. 唯一の解決法

a. どのように悔い改めた信者は神の道徳律を考えていますか (ローマ人への手紙 7:22)。 その一方で彼は自分自身について何を認めますか (同 23)。

「自分で律法を守る行為によって天国にはいろうとする者は不可能なことを試みているのである。律法的な宗教、敬虔の形だけを持っている者には安全がない。」(各時代の希望上巻 201, 202)

b. パウロは彼の霊的状態を嘆いて、どのような結論を下しましたか、そしてこれは 初期のアドベンチスト信者たちによって、どのようにこだましましたか (ローマ人へ の手紙 7:24)。

「罪人は、良心が目ざめるのを感じた。『すべての人を照すまことの光があって、世にきた。』その光が、彼らの心の密室を照らし、隠された暗黒のことをあらわした。彼らの心は、深い感動を受けた。彼らは、罪と義と、来たるべきさばきとについて、目を開かれた。彼らは、主の義を認め、自分たちの罪と汚れのまま、心をさぐられるかたの前に出ることを恐れた。彼らは、苦悶の声をあげて、『だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか』と叫んだ。」(各時代の大争闘下巻 187)

c. どこに唯一の希望を見出すことができますか (ローマ人への手紙 7:25 (上句))。 それでいながら人間の生まれながらの思考の流れはどのようになる傾向があり ますか、なぜそれを根本的に変える必要があるのでしょうか (ローマ人への手紙 7:25 (下句); イザヤ書 55:7)。

「思いをもって、わたしたちは神の律法に仕える。しかし、多くの人々の思いは世に 仕えている。そして彼らの思いがまったく地上の事柄で占められ、自分自身に仕えて いる間は、神の律法に仕えることはできないのである。」(教会への証 1 巻 150)

「わたしたちは自己に死ぬことが、どれほど必要かを理解する必要がある。自己を十字架につけることは、魂を有利な場所におく。わたしは〔あなたがたのうち〕クリスチャンであると公言する人々に自己に死ぬようにとお願いする。こうして聖霊の力によって新しい命にかきたてられることができるためである。サタンは滅びる人々のうちに、あらゆる不義の欺瞞をもって働いている。日々わたしたちは神の改心させる力を必要としている。さもなければ、キリストの御足の跡を歩むことができない。何が純潔と聖潔であるかに関して思いが啓発され、心が聖霊の苦闘に応じるとき、その結果は日々の改心である。」(上を仰いで 269)

- 4. 今や罪に定められることがない
- a. 全く思いをキリストに明け渡した後、パウロ、そして初期のアドベンチスト信者たちも最終的に何を宣言することができますか (ローマ人への手紙 8:1, 2)。

「人間の罪のために無限の犠牲が払われたカルバリーの十字架が示されたとき、彼らは、自分たちの罪を贖い得るものは、キリストの功績以外にないことを悟った。ただこれだけが、人間を神に和解させることができるのであった。信仰をもって謙遜に、彼らは世の罪を取り除く神の小羊を受け入れた。イエスの血によって、彼らは、『今までに犯した罪のゆるし』を得た。」(各時代の大争闘下巻 187, 188)

「キリスト者の生涯は、謙遜がその特徴であるが、悲しみや自己を卑下する気持ちがあってはならない。神に受け入れられ祝福されるような生活をすることは、すべての者の特権である。われわれが、常に罪の宣告と暗黒のもとにあることは、われわれの天の父のみこころではない。頭をうなだれて、自分のことばかりを考えているのは、真の謙遜の証拠ではない。われわれは、イエスのところへ行って、清められ、律法の前にはばかることなく立つことができるのである。〔ローマ 8:1 引用〕。」(同上 207, 208)

b. わたしたちはどこで罪からの自由を見出しますか。 そしてパウロはどのようにして罪 の欲情」からの解放を見出しましたが(ローマ人への手紙 8:3; 7:5 及び 8:2 参照)。

「同じよみがえりの力は、『自分の罪過と罪とによって死んでいた』 魂にいのちを与える力である (エペソ 2:1)。 イエス・キリストにあるいのちのみたま、すなわち『復活の力』は、人を『罪と死との法則から・・・・・・解放』 する (ピリピ 3:10、ローマ8:2)。悪の主権はうち破られ、信仰によって魂は罪から守られる。キリストのみたまに心を開く者は、肉体を墓からよみがえらせるその大いなる力にあずかる者となる。」 (各時代の希望上巻 256, 257)

「わたしたちは自分自身の恵みと功績が、自分を救うと考えてはならない。キリストの恵みが、わたしたちの救いの唯一の希望である。…わたしたちが神を完全に信頼するとき、罪を許す救い主としてキリストの功績により頼むとき、自分の望むあらゆる助けを受けるのである。」(信仰と行い36)

「神を愛する人々、矮小化した発育の阻害された宗教を持っていない人々、かえって、主の戒めを行うことにより、いつも恵み、霊性、活力の新しい供給を得ている人々が必要とされている。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1888 年 6 月 19 日)

#### 5. 肉 対 霊

a. 何が「新しく生まれた」者たちの選択ですか (ローマ人への手紙 8:4-9)。

「体内には低い欲望があって、それがからだを通して活動する。『肉』『体的欲望』という言葉は、低い堕落した性質を総括している。肉体はそれ自体神のみこころにさからって行動することはできない。わたしたちは、情と欲と共に自分の肉を十字架につけなければならない。ではどうすればよいか。からだに苦痛を加えるべきであろうか。加えてはならない。だが罪の誘惑にとどめをさしなさい。堕落した思いを追い払いなさい。すべての思いをイエス・キリストの中にとりことしなさい。すべての動物的な欲望を、魂のより高い力に屈服させなさい。神に対する愛が最高に支配していなければならない。キリストは分裂していない王座にすわりたまわねばならない。わたしたちの体は、キリストに買いとられた財産であると考えねばならない。からだの各部分は義の器とならなければならない。」(アドベンチスト・ホーム 132, 133)

b. 何が聖霊によって導かれる霊的状態ですか (ローマ人への手紙 8:10-14; ヨハネ の第一の手紙 4:7)。

「わたしたちの有限な意志は、無限なるお方の意志に服従しなければならない。人間の意志は神の意志と融合しなければならない。これによって聖霊がわたしたちの助けとして与えられる。そしてすべての戦いは、神が買い取られた所有物を取り戻し、魂のうちに神のみ姿を回復するものとなるのである。」(わたしたちの高い召し153)

「キリストは、人間の救いを単なる告白によるものではなく、義の行ないに現わされる信仰によるものとされたのである。単に言うだけでなく、行なうことが、キリストに従う者に期待されている。品性が築かれるのは行為によってである。〔ローマ8:14 引用〕。……心にみたまが触れる者ではなく、時々、みたまの力に屈伏する者でもなく、みたまに導かれている者が神の子なのである。」(祝福の山 186, 187)

金曜日 2月4日

### 個人的な復習問題

- 1. キリストと「結婚」するとはどのような意味でしょうか。
- 2. わたしたちが自分の力で神の律法に従おうと努力するとき、何が起こりますか。
- 3. わたしたちがキリストに従うことを求めるとき、わたしたちの思いはどこにある必要がありますか。
- 4. ローマ8章の冒頭でどのような良い知らせが紹介されていますか。
- 5. ローマ 8 章に示されている経験でわたしたちはどのように成長し続けるのでしょうか。

### 信頼を通して勝利

暗唱聖句:「あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは『アバ、父よ』と呼ぶのである。」(ローマ人への手紙 8:15)

「人間を罪の宣告や罪の汚れから解放することができるのは、キリストの福音だけである。人間は、神の律法を犯したのであるから、神に向かって悔い改めなければならない。そして、キリストに対しては信じてその贖いの犠牲を受け入れなければならない。こうして人間は、『今までに犯した罪のゆるし』を受け、神の性質にあずかる者となる。」(各時代の大争闘下巻195)

推奨文献: ローマ人への手紙 8:15-39;

セレクテット・メッセージ 1巻 331-339

日曜日

2月6日

#### 1. 神の子ら

a. 生まれながらの「怒りの子」であるわたしたちは、いつどのように (エペソ人への 手紙 2:3)、神の子となりますか (ヨハネによる福音書 1:12, 13; ローマ人への手紙 8:15)。

「天そのものが与えなければならないもっとも大切な賜物は、『神みずからが義となり、さらに、イエスを信じる者を義とされる』ために注がれてきた。その賜物によって、人は罪の堕落と低下からひき上げられて、神の子となるのである。パウロは、『あなたがたは…子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは「アバ、父よ」と呼ぶのである』と述べている。」(教会への証 5 巻 739)

「神を信ずるこの簡単な行為によって、聖霊はわたしたちの心に新しいいのちを与えてくださる。わたしたちは神の家族の子供として生れたのである。であるから、神はみ子を愛されたと同様にわたしたちを愛してくださるのである。(キリストへの道 67)

b. 神の子供として養子縁組された後、何がわたしたちの経験であるべきですか (ガラテヤ人への手紙 5:16; コロサイ人への手紙 2:6)。

「さて、あなたは自分をキリストにささげたのであるから、退いたり、また自分を取りもどしたりしてはならない。ただ日ごとに『私はキリストのものです。私は自分をキリストにささげました』と言って、聖霊を与えられ、彼の恵みによってささえられるよう祈ろう。おのれを神にささげ、神を信じるとき神の子となるのであるから、そのように神にあって生活しなければならない。」(同上 67)

#### 2. 神の子らの特徴

a. 聖書はどのように真の神の子供たちを描写していますか (ヨハネの第一の手紙 3:1-3; ペテロの第一の手紙 1:13-16)。

「使徒ペテロは信者たちに、禁じられた話題へと心がさまよわないように、あるいは、つまらぬことにその力が浪費されないようにすることが、いかに大切かを教えようと努めた。サタンの策略のとりこにならないようにしようと思う者は、魂の通路をよく見張っていなければならない。思いを不純にするようなものを読んだり、見たり、聞いたりしないようにしなければならない。」(患難から栄光へ下巻 217)

b. どのような実が神の子らの生活の中に表されるべきですか (ガラテヤ人への手紙 5:22, 23; ローマ人への手紙 8:16, 17)。

「自己中心の生活には、成長もなければ、実を結ぶこともない。もし、キリストを自分の救い主として信じたならば、自分を忘れて、他を助けようと努力するはずである。わたしたちは、キリストの愛とあわれみについて語り、負わせられるすべての義務を果たし、心には、救霊の責任を感じて、失われた者を救うために、力の限りを尽くさなければならないのである。もしも、わたしたちが、キリストの霊、すなわち、他に対する無我の愛と働きの精神を受けるならば、自然に成長して、実を結ぶのである。あなたの品性にはみ霊(たま)の実が熟し、信仰は増し加わり、確信は強固になり、愛は完成される。そして、…ますますキリストのみかたちを反映するようになるのである。…

キリストは、ご自分の教会の中に、ご自身をあらわそうと熱望しておられる。キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現されたときに、彼らをご自分のところに迎えるために、主はこられるのである。」(キリストの実物教訓 46,47)

c. パウロは、どのように御霊の実一愛 (charity) として知られている純粋な無我 の愛 (love) —を説明していますか (コリント人への第一の手紙 13:4-8)。

「愛は、『不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える』この愛は、『いつまでも絶えることがない』これは、決してその価値を失うことがない。それは、天の特性である。その所有者は、尊い宝としてそれを持って、神の都の門の中にはいることができるのである。」(患難から栄光へ上巻 344)

#### 3. 聖霊によって導かれ力づけられる

a. 聖霊は神の子らのために何をしますか (ローマ人への手紙 8:26, 27)。

「わたしたちの仲保者キリストと、聖霊は絶えず、人間のためにとりなしをしておられる。しかし、御霊はわたしたちのためにキリストのようにとりなしをなさるのではない。キリストは世のはじめから降り注がれたご自分の血を提示なさる。御霊はわたしたちの心に働きかけ、祈りと悔悟、賛美と感謝を引き出す。わたしたちの唇からあふれる感謝は、御霊が聖なる記憶の中で魂の琴線にふれ、心の音楽を呼び覚ましてくださった結果である。

宗教的な礼拝、祈り、賛美、罪を悔い改める告白は信徒から天の聖所へ香のように上っていく。しかし、人間という堕落した通路を通っていくために、それらは血によってきよめられない限り、神にとって決して価値あるものとなり得ない。それらは、神の右手におられる仲保者によって提示され、ことごとくその義によってきよめられるのでない限り、しみのない純潔のうちに上ることはなく、神に受け入れられるものではない。地上の幕屋から上るすべての香は、キリストの血のきよめの滴(しずく)によって湿らされなければならない。このお方は御父の前にご自身の功績の香炉を持っておられ、その中には地上の堕落のしみは何もない。このお方はこの香炉の中に祈り、賛美、ご自分の民の告白を集め入れ、これらと共にご自身のしみのない義を入れられる。こうして、キリストのとりなしの功績に香り、香は完全にまったく神に受け入れられるものとして神のみ前に上るのである。

ああ、すべての人が、従順のうちに、悔い改めのうちに、賛美と感謝のうちにあるすべてが、キリストの義という赤々と燃える火の上に置かれなければならないことを認めることができるように。この義の香りが恵みの座のまわりの雲のように上るのである。」(セレクテッド・メッセージ1巻344)

b. わたしたちがキリストとの一貫したつながりを保つならば、このお方はわたしたち のために何をすると約束することがおできになりますか (ピリピ人への手紙 1:6; ヨハネの第一の手紙 2:1)。

「わたしたちは幾たびとなく、欠点やあやまちを悔いて、イエスの足もとに泣き伏すことであろう。けれども、そのために失望してはならない。たとえ敵に敗れても、神に捨てられ、拒まれたのではない。否、キリストは神の右に座してわたしたちのために執り成しをしておられるのである。」(キリストへの道85)

- 4. ご自分の子らのための神のご目的
- a. 神の賢明な摂理はご自分の子らに関してすべてをどのように導かれますか (ローマ人への手紙 8:28)。

「天父のご臨在がキリストを取り囲んでいたので、無限の愛なる神が世の祝福のためにお許しになること以外は、何一つキリストの身にふりかかってこなかった。これがキリストの慰めの源であった。わたしたちにおいてもそうである。キリストのみたまに満たされた人は、キリストのうちに宿っている。彼をねらう打撃は、ご臨在をもって囲んでいてくださるキリストに当たる。彼に起こることはみなキリストを経てくるものである。キリストが彼の守り手であるから、彼は自分で悪に手向かう必要がない。主のゆるしがなければ、何物も彼に触れることはできない。そして許されることはみな、相共に働いて彼を愛する者たちの益となるのである。」(祝福の山 88)

「ヨセフとダニエルの歴史を研究しなさい。彼らを害しようとした人々の謀略を神は妨げられなかったが、かえってこうした策略が試練や災難の中にもその信仰と忠誠を守った神のしもべの益となるように導かれた。」(ミニストリー・オブ・ヒー-リング471)

b. 神はすべてをご存じですが、ご自分の子らの人生をあらかじめ運命づけておられますか (ローマ人への手紙 8:29: ヨハネによる福音書 1:12)。

「すばらしい可能性がキリストを信じる信仰を持つ一人びとりのために備えられている。生ける魂を救いから遠ざけておくための壁は建てられていない。神が語っておられる運命、あるいは選択には、キリストを自分の個人的な救い主として受け入れ、自分たちの忠誠、すなわち神のすべての戒めへ戻るすべての人が含まれている。これは人々の中から神によってえらばれた特別な民の効果的な救いである。喜んでキリストによって救われるすべての人は、神の選民である。世のはじめからあらかじめ定められているのは、従順な者たちである。」(ゴスパル・ヘラルド 1902 年 6 月 11 日)

c. わたしたちのためになされる段階の過程を説明しなさい (ローマ人への手紙 8:30)。

「召しと義認は一つでも同じものでもない。召しは罪人をキリストへ引き寄せることであり、聖霊が心に働きかけ、罪を自覚させ、悔い改めへと招いてくださる働きである。」(セレクテッド・メッセージ 1巻 390)

#### 5. 勝利の歌

- a. 神のみ言葉はわたしたちに勝利をどのように保証していますか、そしてこれはどのように可能になりましたか (ローマ人への手紙 8:31, 32)。
- b. わたしたちがこのお方とつながっているとき、神はわたしたちのために何をしてく ださいますか (ローマ人への手紙 8:33-39)。

「天の法廷で、キリストは教会のために弁護しておられる。すなわち、キリストが血のあがないの値を支払われた人々のために弁護しておられるのである。どんなに世紀や時代を重ねても、キリストのあがないの犠牲は効力を減じない。生も死も、高いものも深いものも、キリスト・イエスにおける神の愛からわれわれを引き離すことはできない。それはわれわれがしっかりとキリストをつかんでいるからではなく、キリストがわれわれをしっかりつかんでいるからである。もし救いがわれわれ自身の努力にかかっているとすれば、われわれは救われることができない。しかし救いは、すべての約束を支持しておられる方にかかっているのである。キリストをとらえるわれわれの力は弱いように見えるかもしれないが、キリストの愛は兄の愛のようで、主と結ばれているかぎり、だれも主のみ手からわれわれを引き離すことはできない。」(患難から栄光へ下巻 256)

「キリストは、人性をおとりになったとき愛のきずなで人類をご自身に結びつけられた。しかしこのきずなは、人間が故意に離れないかぎり、どんな力でも切り離すことのできないもので、悪魔はつねにこのきずなを断ち切ろうとし、わたしたちが自分から選んでキリストから離れるように誘惑をもってくる。そこでわたしたちは他に主を選ぶというような誘いに陥らないように警戒し努力して祈る必要がある。どちらを選ぶのもつねに自由である。キリストから目を離さないかぎりキリストはわたしたちを守ってくださる。イエスをながめていればわたしたちは安全であって、なにものもイエスのみ手のうちよりわたしたちを奪うことはできない。つねにイエスをながめることによってわたしたちは『主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく』(コリント第二 3:18)ようになるのである。」(キリストへの道 97)

金曜日 2月11日

#### 個人的な復習問題

- 1. わたしたちが養子縁組によって神の家族にしていただくとき、どのような変化が 生じますか。
- 2. このお方の家族への養子縁組の特徴的な実を述べなさい。
- 3. 神格が今わたしたちのためになさっている活動を説明しなさい。
- 4. 予期せぬ困難に直面したとき、なぜわたしたちはストレスを感じる必要がないのですか。
- 5. わたしたちがイエスに目をとめているとき、何が起こりますか。

## わたしたちの機会を大切にする

暗唱聖句:「では、わたしたちはなんと言おうか。神の側に不正があるのか。断じてそうではない。」(ローマ人への手紙 9:14)

「神からあわれみをいただく条件は単純で理にかなっている。主はゆるしをお与えになるために、何か苛酷なことをするようにとはお求めにならない。われわれは天の神にわれわれの魂をゆだね、あるいは罪を償うために長い退屈な巡礼をしたり、苦行をする必要はない。罪を『言い表わしてこれを離れる者は、あわれみをうける』(箴言 28:13)。( ( 集難から栄光へ下巻 256 )

推奨文献: 人類のあけぼの上巻 226, 228 教会への証 5 巻 119, 120

日曜日 2月13日

1. 湿じり合った国民

a. パウロが自分の国民のための救いに抱いていた憧れと、その背後にある理由を述べなさい(ローマ人への手紙 9:1-5)。

「使徒パウロの願望は、ただ普通の願いではなかった。彼は、ナザレのイエスを 約束のメシヤとして認めなかったイスラエルの人々のために働かれるよう、たゆまず 神に嘆願していた。……

ユダヤ人は、神の選民であった。神は、彼らによって、全人類に祝福を与えようとなさった。神は彼らの中に、多くの預言者を起こされた。これらの預言者たちは、あがない主の来臨を預言したのであったが、主は、最初に彼を約束のあがない主として受けいれるはずの人々によって拒否され、殺されるのであった。」(患難から栄光へ下 56, 57)

b. ヘブル人が国民として始まった時以来、神はいつも彼らの間に何が存在するよう に守ってこられましたか (ローマ人への手紙 9:6-8)。

#### 2. 古代の模節

a. まだ生まれていない双子の将来について、リベカへの主のメッセージからわた したちは何を学ぶべきでしょうか (ローマ人への手紙 9:10-12; 創世記 25:22, 23)。

「神が独断的選択を行ない、エサウを救いの祝福から閉め出されたというようなことはない。神の恵みの賜物はキリストによって、すべての者に分け隔てなく与えられている。人間が滅びるのは、自分自身の選択によるのであって、そのように選ばれたのではない。神は、み言葉の中に、すべての魂が永遠の命に選ばれる条件をお示しになった。それは、キリストを信じる信仰によって、神の戒めに従うことである。神は、神の律法と一致した品性を選ばれるのであるから、だれでも神の要求される標準に達する者は、栄光の王国にはいることができる。」(人類のあけぼの上巻 226, 227)

b. 長子権に関して、長子であるエサウと次男であるヤコブの望みは何でしたか (創世記 25:29-34; ヘブル人への手紙 12:16, 17)。

「長子の特権を受けるのは、長子のエサウであ…った。しかし、エサウは献身を好まず、宗教生活を送る気持ちがなかった。彼にとって、霊的な長子の特権に付随した要求は、好ましくないというよりはやっかいな制限とさえ思われた。アブラハムと神との契約の条件であった神の律法は、奴隷のくびきのようにエサウには思われた。彼は放縦を好み、ただ自分の欲するままにふるまう自由を望むだけであった。彼にとって、権力と富、飲食と宴楽が幸福なのであった。彼は、なんの束縛もない奔放な流浪の生活の自由を誇った。」(人類のあけぼの上巻 190)

「彼が神の民から離されたのは、〔エサウ〕自身が故意にそう選んだのであった。 ヤコブは、信仰の遺産を選んだ。」(同上 227)

「ヤコブは、長子の特権が自分に与えられるという神の告示を母親から聞き、なんとかしてその特権を自分のものにしたいという言葉には表現できない願望に満たされた。彼が渇望したのは、父親の富を所有することではなかった。彼が願い求めたものは、霊的長子の特権であった。義人アブラハムのような神との交わりにはいり、家族のために犠牲をささげ、選民と約束の救い主の先祖となり、契約の祝福に含まれている永遠の嗣業にあずかることなどが、彼の熱心に求めてやまない特権であり、誉れであった。彼の心は常に将来のことに向けられ、目には見えない祝福を得ようと努めていた。」(同上 191)

- 3. 公平とあわれみ
- a. どのように神の正義がヤコブを高く評価したことを明らかにしていますか (ローマ 人への手紙 9:13, 14)。

「神が独断的選択を行ない、エサウを救いの祝福から閉め出されたというような ことはない。神の恵みの賜物はキリストによって、すべての者に分け隔てなく与えら れている。人間が滅びるのは、自分自身の選択によるのであって、そのように選ば れたのではない。神は、み言葉の中に、すべての魂が永遠の命に選ばれる条件を お示しになった。それは、キリストを信じる信仰によって、神の戒めに従うことである。 神は、神の律法と一致した品性を選ばれるのであるから、だれでも神の要求され る標準に達する者は、栄光の王国にはいることができる。キリストご自身はこう言 われた。「御子を信じる者は永遠の命をもつ(ヨハネ 3:36)。「わたしにむかって『主 よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の 御旨を行う者だけが、はいるのである」(マタイ7:21)。そして、主は、黙示録のな かで言われる。「いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはい るために、自分の着物を洗う者たちは、さいわいである」(黙示録 22:14)。人間 の最後の救いについて、み言葉の中にあらわされている選びとは、これだけである。 おそれおののいて自分の救いを達成しようとする者はみな選ばれている。武具を まとって、信仰のよき戦いをする者は選ばれている。目をさまして祈り、み言葉を 研究し、誘惑からのがれる者は選ばれている。常に信仰を持ち、神のみ口から出 るすべてのことばに従おうとする者は選ばれている。贖罪に必要なことがらはすべ ての者に無代で与えられている。贖罪の成果は、条件に応じる者に与えられる。」(人 類のあけぼの上巻 226, 227)

b. どのように神はご自分のあわれみについてモーセに時代を越えた原則を明らかに なさいましたか (出エジプト記 34:5-7; ローマ人への手紙 9:15, 16)。

「わたしたちは神がわたしたちに対する宣告を下そうと待ち構えている裁き主としての み考えてはならない。このお方は罪を憎まれる。しかし、罪人に対する愛から、この お方はキリストというお方のうちに、ご自身を与えて下さった。それは望むすべての人 が救われ、栄光の御国のうちに永遠の祝福を持つことができるためであった。

主ご自身が、サタンが悪意をもって偽りの光のうちに定めたご自分のご品性を宣言された。…〔出エジプト記 34:6,7 引用〕。」(教会への証 5 巻 633)

#### 4. パロ

- a. どのようにすべての人は、モーセがイスラエルを奴隷のくびきから解放するように との神のご命令をパロに提示した時のパロの態度の危険に注意を払うべきですか (ローマ人への手紙 9:17: 出エジプト記 5:1, 2)。
- b. パロの心がますますかたくなになっていったのはなぜですか、そしてこれはどのようにすべての人にとって警告なのですか (出エジプト記 7:3, 4; ヘブル人への手紙 4:7)。

「神は、人を滅ぼすようなかたではない。滅びにおちいる者は、自分で自分を滅ぼすのである。良心の警告をかえりみないものは、不信の種をまいて、必ず、その収穫を刈り取るのである。むかし、パロは、神の最初の警告をしりぞけて、強情の種をまいたために、強情の収穫を刈り取った。これは、何も神が彼を無理に信じられないものになさったのではなかった。パロのまいた不信の種がそれ相当の実を結んだのである。こうして、彼の抵抗は続き、ついに、エジプトの国は全く荒れ果て、パロの長子と、エジプト全国民の長子がことごとく冷たいしかばねとなり、パロの全軍が馬と戦車もろともに、海底に沈んでしまうことになったのである。『人は自分のまいたものを、刈り取ることになる』というみことばがいかに真実であるかを、パロの生涯は、恐ろしいばかりに示したのである(ガラテヤ 6:7)。人びとが、このことを自覚しさえすれば、どんなに種をまくことに注意することであろう。」(キリストの実物教訓 64)

「王の心をかたくなにするために、何か超自然の力が用いられたのではない。神は、パロに神の力の最も著しい証拠をお示しになったのであったが、王はかたくなにも光を心に留めることを拒んだ。無限の力の表示をことごとく退けた彼は、反抗の決意をさらに固めた。彼が最初の奇跡を退けたときにまいた反逆の種は、その実を結んだ。彼が、彼自身の道を歩む危険を冒し続け、ますます強情の度合いを増すにつれて、彼の心はいよいよかたくなになり、ついに、長子のつめたい死に顔をながめなくてはならないようになった。」(人類のあけぼの上巻 307)

「まさにパロの心の中で起こったことが、光を大切にし、その光線のうちにすみやかに歩むことをなおざりにするすべての魂のうちに起こるのである。神はだれをも滅ぼすことをなさらない。罪人は自分自身の悔い改めない態度によって自らを滅ぼすのである。人が一度、神の御霊の招き、譴責、警告に注意を払うことをなおざりにすると、彼の良心は焼き印が押されるようになり、次に訓告された時には、以前にまして従順をお捧げするのが難しくなる。こうして、毎回繰り返されるのである。」(教会への証5巻120)

- 5. 決心する時は来た
- a. 霊感はすべての死すべきものが直面している厳粛な現実を、どのように伝えていますか (ローマ人への手紙 9:18-20)。

「今は、わたしたちの前にある恐ろしいテストのために準備し、用意を整えること 一それがなければ神を見ることができない聖潔一を求めるべき時である。だれも、自分の道は主から隠されている、神はわたしの方法をご存じないと言ってはならない。今なら、遅すぎはしない。今なら、悔い改めることができる。しかし、もしあなたの名のところに許しが書き込まれても、あなたは恐るべき損失をこうむることになる。なぜなら、あなたが自分の魂につけた傷は残るからである。

ああ、真理の光、すなわち神から自分たちに与えられた偉大な光を持っている人が、いかにこのお方に対して罪を犯し、神がまさにご自分のみ言葉の中でしてはならないとお命じになったことをすることによって、神の怒りと裁きを平然と無視することができようか。彼らはどうして、神を目の当たりに蔑むほどサタンに盲目にされ、知りながら罪を犯すことによって自分の魂を汚すことができるだろう。使徒は次のように言っている、『わたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ』。これらの罪人は一偽善者と呼ぼうか一シオンにいて訊ねる、わたしはどのような方法において、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのか。あなたがた自身が答えるがよい。神がわたしに与えて下さった光と特権と憐れみの乱用によって、魂を堕落させて汚す品の悪い行動によってである。神を知っていると公言しながら、わたしはこのお方を自分の思想から取り除き、偶像と取り換えるのであろうか。わたしは自分の例によって罪を軽くみなすよう、他の人々の思いを導くのであろうか。」(牧師への証 447)

b. どのような絵がわたしたちの思いの中に鮮明に保たれるべきですか (ローマ人へ の手紙 9:21-23)。

金曜日 2月18日

#### 個人的な復習問題

- 1. どのように血筋は救いを保証することはないということを知ることができますか。
- 2. なぜヤコブはエサウよりも神の御目に好ましかったのですか。
- 3. ヤコブとモーセの経験は神について、わたしに何を教えていますか。
- 4. わたしはどのようにパロが選んだ段階的な霊的な自殺行為を避けることができますか。
- 5. わたしがたった今、している選択はわたしの永遠の運命に、どのように影響を及 ぼしますか。

## 全能者の力

暗唱聖句:「また、イザヤはイスラエルについて叫んでいる、『たとい、イスラエルの子らの数は、浜の砂のようであっても、救われるのは、残された者だけであろう。主は、ご自分の働きを成し遂げられ、義のうちにすみやかにされる。なぜなら、主は短い働きを地上になさるからである。』」(ローマ人への手紙 9:27, 28 欽定訳)

「天において支配なさる方は、初めから終わりまでごらんになる方である。その方の前には、過去と未来の神秘が同じように展開されている。彼は罪がもたらした不幸と暗黒と破滅のかなたに、神ご自身の愛と祝福のみこころが達成されるのをご覧になる。」(人類のあけぼの上巻 16)

推奨文献: 黒難から栄光へ下巻 54-66

日曜日 2月20日

- 1. イスラエルの神
- a. アブラハムの子らであることを識別するものは何ですか (ヨハネによる福音書 8:37-39; 創世記 26:5)。

「ユダヤ人たちはアブラハムの子孫であると主張したが、アブラハムのわざを行わないことによって、自分たちが真に彼の子孫ではないことをあらわした。霊的に彼と調和する人々だけが、真の子孫だと認められるのである。」(この日を神と共に183)

『信仰による者こそアブラハムの子である』とパウロは言っている(ガラテヤ3:7)。しかし、アブラハムの信仰は行為にあらわされた。……使徒ヤコブは『信仰も、それと同様に、行いを伴わなければ、それだけでは死んだものである』と言った(ヤコブ2:17)。そして、愛を深く瞑想したヨハネは、『神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである』といっているのである。」(ヨハネ第一5:3)。」(人類のあけぼの上巻160)

b. 今日の真のイスラエル人はこれまで何を心にとめていますか (ローマ人への手紙 9:24-29)。

- 2. 神のあわれみが明らかにされた
- a. なぜ神はイスラエルを民として拒絶せざるを得なかったのですか (ローマ人への 手紙 9:31-33; 10:1-3)。

「ユダヤの国の指導者たちは、選ばれた民に対する神の御目的の成就にはなはだしく失敗した。主から真理の受託者とされていた人々は、その義務に不忠実だったことを証明した。そこで神は、みわざを行うために他の人々をお選びになった。これらの指導者たちは、彼らが大切にいだいていた教えを放棄していく者たちに向かって、何もわからずに、居丈高になって、義憤だとして、怒りをぶちまけた。彼らは自分たちがみことばを正しく理解しないで、聖書を誤解したり、誤用していた可能性のあることすら認めようとしなかった。彼らはまるで理性を失った人々のように行動した。」(患難から栄光へ上巻 79,80)

b. 異邦人が神の国の相続人として結び合わされたのはなぜですか (ローマ人への手 紙 9:30; 10:9–13; イザヤ書 42:6, 7)。

「救い主はイスラエルと他の国々との『隔ての中垣』を取り除くことについての真理を、すなわち、『異邦人が』ユダヤ人と共に『神の国をつぐ者となり』『福音によりキリスト・イエスにあって・・・・共に約束にあずかる者となる』という真理を弟子たちに明らかにしたいと切望された(エペソ 2:14; 3:6)。主がカペナウムの百卒長の信仰に報いられたときと、スカルの町の人々に福音をお伝えになったときに、この真理の一部が現された。キリストがフェニキヤを訪問されて、カナンの女の娘をいやされたときに、この真理は更に明らかにあらわされた。こうした経験は、救いを受ける価値がないと思っていた多くの人々の中にも、真理の光を渇望している者たちがいることを、弟子たちに理解させるのに役立った。

こうしてキリストは、神の国では領土の境界線がなく、世襲的階級制もなく、貴族もいないという事実を、また、救い主の愛の使命を携えて、あらゆる国々に出て行かなければならないということを、弟子たちに教えようとされた。しかし彼らは後になるまで、神が『ひとりの人から、あらゆる民族を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに時代を区分し、国土の境界を定めて下さったのである。こうして、人々が熱心に追い求めて捜しさえすれば、神を見いだせるようにして下さった。事実、神はわれわれひとりびとりから遠く離れておいでになるのではない』ということを十分に認識しなかった(使徒行伝 17:26, 27)」(同上 11, 12)

#### 3. 神は全世界を愛される

a. サタンの嘘と神の人類に対する偏見のない計画の対比を説明しなさい (ガラテヤ 人への手紙 3:28: テモテへの第一の手紙 2:3-6: ペテロの第二の手紙 3:9)。

「キリストはすべての人を求められた。主は一人が失われることさえ耐えられなかった。ああ、もし人類家族が世の中に存在する違法や違反や犯罪における罪の結果を見ることさえできたなら。自分が神のみ姿から悪魔に似た者に変化しているのを、人類家族が知ることができたならばよいのに。」(彼を知るために67)

「主は最大の辱めの死を遂げられた。そして一人も滅びないですべてが悔い改めに至ることができるように、十分な完全な犠牲をなされた。主は、すべての悔い改めた人々、信じる魂が罪を負われた主を見出すことができるように、贖いをなされた。」(同上 100)

「神の御心は人が滅びることではなく、すべての人が永遠の命を得ることである。」 (牧師への証 394)

b. どのような任務がすべての神の民に与えられていますか (マタイによる福音書 28:18-20; ローマ人への手紙 10:14, 15)。

「ガリラヤの山での集まりに、呼び集められるかぎりすべての信者が集められた。」(各時代の希望下巻 361).

「無限の権威を帯びて、キリストは、弟子たちに任命をお与えになった。」〔マタイ 28:19, 20 引用〕。」(同上 364)

「昇天なさったあと、人の仲保者となることがこのお方のご目的であった。このお方に従う人々はこのお方が始められた働きを続けていくべきである。…神は真理を知っているすべての魂に、他の人々を真理への愛へ勝ち取るように努めるように命じておられる。」(教会への証 9 巻 103)

「主イエスは、主の恵みを伝えるのにさまたげるもののない水路となる人々の協力をお求めになる。神と共に働く者になりたいと思う者がだれでも学ばねばならない第一のことは、自分にたよらないという教訓である。その時彼らはキリストの品性を与えられる用意ができる。これはどんなに科学的な学校の教育によっても得られないものである。それは天来の教師イエスからのみ得られる知恵の実である。」(各時代の希望上巻 310)

#### 4. 行動のための召し

a. 争いに満ちた世界に対する神の驚くべき配慮を考慮して、わたしたちはそれぞれ どのような行動への召しを受け入れなければなりませんか (コリント人への第一 の手紙 12:13; ローマ人への手紙 11:1-4)。

「群れは今すみやかに二人ずつ出て行って、キリストの御霊のうちに、このお方のご計画に従って働きなさい。幾人かのユダが働き人の群れの中に入り込むかもしれないが、主は働きをかえりみで下さる。このお方の御使たちが先に行って、道を整えるであろう。この時の前に、すべての大都市は試金石となるメッセージを聞き、幾千もの人々が真理の知識へと導かれるべきである。諸教会よ、目覚めなさい、枡の下から光を取り出しなさい。

キリストがなさったように働き、研究し、祈りのうちに魂を悩ませる人々はどこにいるか。わたしたちは自分たちの努力をわずかな場所にとどめてはならない。『一つの町で迫害されたなら、他の町へ逃げなさい』。キリストのご計画に従いなさい。このお方はいつも個人的な働きに携わる機会を見守っておられた。いつでも聖書研究へと人々の関心を呼び、引き出す用意ができておられた。このお方は忍耐強く何が真理であるかについて知的な知識を持っていない人々のために労された。わたしたちが状況に目覚めておらず、多くの時間が、どのように滅びつつある魂へ伝えるかを計画するために費やされている間に、サタンは道を考案しふさぐのに忙しくしている。…

あまりにも多くの労力がわずかなお気に入りの場所にある植物のために払われてきた。多くの資金と時間が、(場所の名)に捧げられてきたほどに、他の場所に捧げられることがないようにしよう。」(医事伝道 303)

b. 今日生存しているユダヤ人に対するわたしたちの態度と義務がなんであるかを説明しなさい (ローマ人への手紙 11:5, 11, 17-21)。

「ローマ 11 章にまとめられているように、ユダヤ人のための働きは、特別な知恵で取り扱われなければならない働きである。それは無視すべきではない働きである。神の知恵がわれわれの民に与えられなくてはならない。あらゆる知恵と義にあって、われわれは王の通る道を備えなければならない。ユダヤ人には光に来るためのあらゆる機会が与えられるべきである。」(SDA バイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメントl 6 巻 1079)。

c. 神の取り扱いは、どのようにこのお方のあわれみを明らかにしていますか (ローマ 人への手紙 11:22-25)。

#### 5. 闇のおもてにある輝き

a. わたしたち一人一人が接触する人々と分かち合うべき最後のメッセージを述べな さい (イザヤ書 40:10; ローマ人への手紙 11:30-32)。

「花婿を待ち望んでいる者は、『あなたがたの神を見よ』と人びとに言わなければならない。あわれみに満ちた最後の光、世界に伝えるべき最後のあわれみのメッセージは、神の愛の啓示である。神の子らは、神の栄光をあらわさなければならない。彼らは、その生活と品性において、神の恵みが彼らのためにどんなことをなしたかを表わさなければならない。

義の太陽の光はよい行ない、一真のことば、清い行ないなどによって、輝き出なければならない。……

実際的の行為は、単なる説教以上に、はるかに効果がある。……心は神からの同情と、キリストのような熱烈な愛の泉がせきを切ってわき出ることであろう。」(キリストの実物教訓 392, 393)

b. 地上歴史の最後にある真の神のイスラエルの経験とその理由を述べなさい (ヨハネの黙示録 12:17; 14:12; ローマ人への手紙 11:33)。

「主は、この最後の働きにおいて、普通一般の事とは非常に異なった方法、そして、 どんな人間の計画とも反対の方法で働かれるのである。わたしたちの間には、常 に神の働きを支配し、世に伝えられるベきメッセージにおいて第三天使に加わる御 使の指示の下で、働きが前進するときに、どのような運動がなされるかでさえ、命 令しようとする人がいる。神は、ご自分が、支配権を握っておられることを明らか に示す手段、方法をお用いになる。」(伝道 118)

金曜日 2月25日

#### 個人的な復習問題

- 1. アブラハムの霊的な強さをより完全に発達させるために、わたしはどうすべきでしょうか。
- 2. 格差の時代において、すべてのクリスチャンは何を心にとめておかなければなりませんか。
- 3. 神が異邦人の間でおほめになった種類の信仰を、わたしはどのように発達させる ことができますか。
- 4. キリストのみ力にあってこのお方のために魂を勝ち取るために、どのような行動をとることができますか。
- 5. 第三天使のメッセージを分かち合う際、どのように実際的なものとすることができますか。

## 第一安息日献金 オーストラリア、ケイラーパークの教会のために

およそ 500 万人の住民がすむビクトリア州メルボルンは、オーストラリア本州の 最南端の首都です。セブンスデー・アドベ

ンチスト改革運動はここに 50 年以上存在 してきました。

1972 年、教会の建物が、ボランティアの手によってケイラーパークの西郊外に剣道捧げられました。それが建設されたときは、建物の大きさは十分なものであったはずでした。しかし、年月が過ぎ、教会員が増えて、多くの子供たちが生まれ、教会に出席する人の数が増えてきました。地域社会の灯台として半世紀が過ぎた



後、ケイラーパークにある教会の建物は、深刻に修繕が必要になってきました。それはまたここで礼拝する人々の数が増えて収容するには小さくなってきました。ここ数年、聖所のまわりの基礎が沈んできて、壁と屋根の骨格が基礎の移動に耐えられなくなりました。これは、非常に難しい高額な修繕を必要とします。

多くの検討の結果、兄弟たちは教会の再建が最善であり、最も単純であり、コスト的にも最も効果があるとの結論に達しました。ですから、わたしたちの願いは、神を礼拝する大きな会を完成させ、わたしたちの周囲にいる人々に対して、証人となることです。わたしたちはまた料理実演や健康講演、公のための伝道活動のために新しいダイニングホールも含めることを計画しています。

わたしたちは地元当局から必要な承認を受け、建設のための計画書を書き上げ、 今や建設のための許可を得る手続きに入っています。

このお願いが皆さんのところへ届く時には、建設が始まっていることでしょう。そしてケイラーパークの教会員や友人たちは皆さんの援助を必要としています。計画の許可には、アスファルト敷きの駐車場が要求されており、これがわたしたちの費用を相当に押し上げています。わたしたちはこの事業を完成するために控えめに見積もっても45万オーストラリアドルがかかると見込んでいます。今までに22万ドルを積み上げてきました。そして多くの教会員、友人、そしてわたしたちの地域の隣人たちさえも、この新しい教会の建物を建設するにあたり、わたしたちを助けるために自分の時間を喜んで犠牲にしようとしています。「さあ、立ち上がって築こう」(ネヘミヤ2:18)!このベンチャーに加わり、西メルボルンのための灯台を完成させるために、わたしたちを助けてください。感謝致します。そして神様がすべての献金者を祝福してくださいますように!

オーストラリア連合から皆さんの兄弟より

## 神の愛によって変えられる

暗唱聖句:「あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。」(ローマ人への手紙 12:2)

「われわれは自らを神の奉仕のためにささげなければならない。そして、この供え物をできるだけ完全に近いものとするように努めるべきである。神は、われわれのささげ得る最善のものでなければお喜びにならないのである。心から神を愛する者は、生涯の最上の奉仕を神にささげたいと望み、神のみこころを行なう能力を増進する律法に、自分たちの持っているあらゆる力を調和させようと絶えずつとめるのである。」(人類のあけぼの上巻 415)

推奨文献: 教会への証5巻275-281

□曜日 2月27日

- 1. 生きた捧げ物
- a. わたしたち一人一人に提示されている厳粛な訴えは何ですか (ローマ人への手紙 12:1)。

「聖所の務めのためにささげられる供え物は『傷のないもの』でなければならないと、神は言明された(出エジプト記 12:5)。祭司たちは、犠牲としてささげられる動物をみなよく調べ、傷があるものは、ことごとく退けなければならなかった。『傷のない』供え物だけが、『きずも、しみもない小羊』(ペテロ第一 1:19)として、ご自身をおささげになる主の完全な純潔を象徴するものとなることができた。使徒パウロは、キリストに従う者たちが自分自身をささげることの例証として、この犠牲を指摘している。」(人類のあけぼの上巻 415)

b. 真の変化は、どこでなされますか (ローマ人への手紙 12:2)。

「キリストはすべてを要求なさる。もしこのお方が少なく要求されるとすれば、このお方の犠牲は、わたしたちをそこまでの水準に至らせるにはあまりにも大切で、あまりにも大きい。わたしたちの聖なる信仰は、分離、と叫ぶ。わたしたちは世と、すなわち死んだ心のない公言者たちと一致すべきではない。『心を新たにすることによって、造りかえられ』なさい。これが自己否定の道である。」(教会への証 1 巻 240)

#### 2. 霊的に貧しくなる

a. 信者として、わたしたち一人一人は自分自身について何が警告されていますか(ローマ人への手紙 12:3; 伝道の書 7:16)。

「わたしたちの間には、正される必要のある悪がある。兄弟たちは、他の人々にあると思われる欠点を自由に見たり、語ったりしてよいと感じているが、その自由そのものが、彼ら自身のうちにある決定的な欠点を明らかにしているのである。彼らは自分自身の過大評価で賢いことを表している。そのために神は彼らにご自分の特別な祝福をお与えになることができない。なぜなら、彼らは自分自身を高め、真理の尊いみ事業を傷つけているからである。世が神の知識に欠乏しているときに、イエスはこの計り知れない祝福一わたしたちの天父の父親らしいご品性についての知識一を与えるために来られたのである。」(牧師への証 193)

b. キリストは、誤りの多い罪人であるわたしたちすべてに向かって、どの訴えをして おられますか (マタイによる福音書 5:3, 5; 11:28-30)。

「〔マタイ 11:30 引用〕。われわれはキリストから柔和と謙遜を学ぶために、キリストの学校にはいるのである。あがないは、魂が天国のために訓練される過程である。この訓練はキリストを知ることである。それは暗黒の君の学校で身についた考え方、習慣、行為からの解放である。魂は神への忠誠に反する一切のものから救い出されねばならない。

不安を生じさせるのは自分を愛する心である。われわれが天から生まれるときに、イエスのうちにあったのと同じ心がわれわれのうちに宿るようになる。それはわれわれを救うために自らいやしい身となられたイエスの心である。そのときわれわれは、最高の地位を求めなくなる。われわれはイエスの足元にすわってイエスについて学びたいと望むようになる。われわれの働きの価値は、世間にそうぞうしい宣伝をしたり、自分自身の力で熱心に活動したりすることにあるのではないということがわかる。われわれの働きの価値は、聖霊を与えられる度合いに比例する。こうして神に信頼することによって、一層きよい心の品質が与えられ、忍耐のうちにわれわれの魂を保つことができる。」(各時代の希望中巻 51,52)

「神の他、人の心の誇りを征服することができる者はない。わたしたちは自らを救うことができない。自らを再生させることができない。天の宮廷では、われを愛するわれに、われを洗い、われを贖い、われに栄光と誉と祝福と賛美あれと歌われる歌はない。しかし、この地上のこの世では、多くの人によって歌われている歌の基調がこれである。彼らは柔和で心のへりくだったという意味が何かを知らない。そして彼らはそれを避けられるなら、それを知ろうともしない。福音全体は、キリストに、このお方の柔和とへりくだりを学ぶことにある。」(牧師への証 456)

- 3. クリスチャンの輪の中で
- a. パウロはどのように教会の働きを説明しましたか (ローマ人への手紙 12:4, 5; コリント人への第一の手紙 12:12-23)。

「パウロは、教会を人間の体と比較することによって、キリストの教会のすべてのメンバーの間における密接で調和した関係を、適切に説明した。」(患難から栄光へ上巻 341)

b. 神はご自分の教会のすべてのメンバーに何を期待なさっていますか (エペソ人へ の手紙 4:1-3, 12, 13)。

「わたしはエペソ人への手紙第四章の使徒パウロの言葉を指し示す。この章全体 は神が、われわれに学んで実行することを望んでおられる教訓である。

エペソ人の手紙第四章で神は、大変わかりやすく、また単純に、すべての神の子らが真理をつかむようにと神の計画を啓示しておられる。ここに教会員が世に対して健全な宗教経験を表すことのできるよう、教会における一致を保つために神が定められた方法がわかりやすく述べられている。」(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント 16 巻 1117)

c. 教会における思いやりのある調和の秘訣を説明しなさい (ローマ人への手紙 12:9)。

「神の愛は、キリストがお示しになった同じやさしい同情を示すようわれわれに求めるとき、人の心に最も感動的な訴えをする。兄弟に対して無我の愛を持つ人だけが、神のために真実の愛を持っている。ほんとうのクリスチャンは、危険や欠乏の中にいる魂に、警告や保護を与えもせずにその人を去らせたいと思わない。彼は、魂が更に不幸や失望に陥っているのに、あるいはサタンの戦場に倒れているのに、身を誤ったその人たちから超然としていることはできない。」(患難から栄光へ下巻253,254)

「わたしたちは謙遜と悔い改めをもって主を求め、自分たちの罪を告白し、互いに緊密に一致するようになる。兄弟姉妹よ、祈りなさい、あなた自身のために、また他の人のために祈りなさい。」(レピュー・アンド・ヘラルド 1909 年 4 月 29 日)

#### 4. 人間の性質の現実

a. わたしたちが長年、キリスト教を公言してきたとしても、わたしたちは絶えず何を 覚えていなければなりませんか (エレミヤ書 17:9; コリント人への第一の手紙 8:1 (下句))。

「不信仰の形はいろいろある。なぜならサタンがあらゆる機会を狙って自分のなんらかの性質を押し込もうとしているからである。生まれつきの心の中には、一生懸命に努力して成功すると、称揚されたり威張ったりする傾向がある。しかし自己称揚が神の働きに入る余地は全くない。あなたがどれほど知性があろうと、どれほど熱意をもって熱心に働こうと、誇ろうとする自分の傾向を追い払って、神の御霊に導かれるために自己を明け渡さない限り、敗北の地にいるのである。

魂における霊的な死は、霊的な誇りと歪んだ経験によって証明される。そのような経験を持つ人々は、自分の歩む道をまっすぐにすることがない。誇りが育てられると、もし受け入れられれば祝福と恵みとなる頭脳そのものが、汚染されてしまう。またもし栄光が神に帰せられるなら、命から命に至る香りとなる勝利そのものが、自己称揚によって濁ってしまう。これらのことは小さなこと、気を付けるほどのこともないように見えるかもしれないが、このようにしてまき散らされた種は確実に刈り入れられる。サタンが彼の仕事に使うのは、あまりにもありふれているので、ほとんど気に留められることがないような小さな罪に見えるのである。」(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント ]6 巻 1080)

b. どのような過小評価されがちな態度が、実際には本物のキリスト教の最高のしる しですか (ピリピ人への手紙 2:3: ローマ人への手紙 12:10)。

「神は多くの人々が自覚しているよりも多くのことをご自分に従う人々に要求しておられる。…もしこのお方のみ言葉の中にわたしたちの前に置かれた標準に到達しないとすれば、神の日に提示できる言い訳はない。…

パウロは、キリストの霊によって促された純潔で無我の愛と、世に満ちている無意味で欺瞞的な見せかけとの間を、わたしたちが区別するようにと願うことであろう。この低俗な偽物は多くの魂を誤り導いてきた。それは不法者に忠実にその過ちを示す代わりに賛同することによって、正しいことと悪いことの間の区別を取り除いてしまう。そのような行動は決して真の友情から発生したものではない。それが生じた精神は、肉の心の中にのみ住みついている。クリスチャンはいつも親切で同情深く、許すものであるが、罪との調和を感じることができない。…キリストの御霊は罪を憎むようにわたしたちを導くかたわら、わたしたちは喜んで罪人を救うためにはどんな犠牲をも払うのである。」(教会への証5巻171)

#### 5. 世的な焦点から自分たちを引き離す

a. 非常に激しい時代に生きているために、わたしたちの生活には、どのような均衡 のとれた訓告が反映されなければなりませんか(ローマ人への手紙 12:11; ヨハ ネの第一の手紙 2:15-17)。

「待つこと、見張ること、油断せずに働くことが結合しなければならない。わたしたちの生活は、急き立て、突進し、世の事柄について計画することでいっぱいになり、神の要求される個人的な敬神と奉仕をなおざりにすべきではない。事業において怠惰であるべきではないが、霊において燃え、主に仕えるべきである。魂の灯は芯が切りそろえられていなければならない。そしてわたしたちは自分の灯の器の中に恵みの油を持っていなければならない。すべての迫害は、霊的な下降を防ぐために用いられなければならない。さもないと、主の日がわたしたちに盗人のように襲う。その日を先に延ばしてはならない。それは近い。であるから、だれも、心の中においてさえ、ましてや自分の行いにおいて、『わたしの主は来るのが遅れている』と言ってはならない。さもなければ、そうすることによって、彼の受けるべき分は、偽善者や不信者と共に定められることになる。

わたしは神の民が大いなる危険のうちにいるのを見た。多くの人々は地上の住民である。彼らの関心と愛情は、この世に集中している。彼らの模範は正しくない。この世は大いなる高尚な真理を公言する多くの人々のとる行動によって欺かれている。…

A 兄弟は、わたしの前に、似たような立場にいる階級を代表していることが示された。彼らは決して世の最も小さな利点に対して無関心ではない。勤勉なビジネスの機転と成功的な投資によって、ポンドではなく、ペンスやファージング(非常に小さな単位の金銭)の取引を行うことによって、彼らは財産を積み上げてきた。しかし、こうすることによって、彼らはクリスチャン品性の発達と矛盾するように機能を教育してきたのである。

人が持っているすべての能力は神に属している。世俗的な一致や愛着は、このお方のみ言葉のうちで断固として禁じられている。神の変化させる恵みの力が心に感じられるとき、それは人を、これまでの世俗から、善行のすべての道へと送るのである。」(教会への証5巻276,277)

金曜日 3月4日

#### 個人的な復習問題

- 1. わたしのキリストに対する誓約は、わたしが考える方法に、どのような影響を及ぼすべきですか。
- 2. 柔和な人は、典型的な生まれながらの人とは対照的にどのように輝きますか。
- 3. 教会の一致が発達するために、わたしはどのようにもっと積極的になることができますか。
- 4. 自分自身よりも兄弟たちをすぐれたものと心から考えることは、どのようにわたしに益をもたらしますか。
- 5. わたしは世のどの局面から、自らを引き離す必要がありますか。

## 友と敵のただ中で

暗唱聖句:「悪に負けてはいけない。かえって、善をもって悪に勝ちなさい。」(ローマ人への手紙 12:21)

「神の御国において偉大になることは、謙遜と信仰の単純さと、愛の純粋さにおいて幼子になることである。あらゆる誇りは滅び、あらゆる嫉妬は克服され、あらゆる最高位を求める野心は放棄されなければならない。そして子供の柔和と信頼が奨励されなければならない。」(教会への証5巻130)

推奨文献: ミニストリー・オブ・ヒーリング 467-482

□曜日 3月6日

- 1. 永遠の御腕に頼る
- a. 人生が暗く見える時でも、わたしたちの態度はどのようであるべきですか (ローマ 人への手紙 12:12)。

「だれでも、試練、耐えがたい悲しみ、抵抗しがたい誘惑をもっていないものはいない。自分の悩みを友に語るのでなく、何事も祈りによって神に訴えなければならない。疑いや失望の言葉はひと言も言わないということにしよう。希望ときよい喜びにみちた言葉を語ることによって、ほかの人を更に明るく強く生きるように導くことができる。」(キリストへの道 166, 167)

「神に祈りをささげるのに、不適当な時とか場所などはない。熱心な祈りの精神をもって心を天に向けるのに妨げとなるものはなにもない。雑踏した路上でも、商取引の最中でも、ちょうどネヘミヤがアルタシャスタ王の前で自分の願いを告げたときのように、神に願いをささげて導きを請うことができる。祈祷の密室はどこにでもある。わたしたちは、絶えず心の戸を開いて、イエスに天来の客として心のうちに住みたもうよう招待しなければならない。

たとえわたしたちは、汚れた腐敗した空気につつまれていても、その毒気を吸う必要はなく、天のきよい空気の中に生きることができる。真剣に祈って心を神の前に高め、不潔、不正な思いが入らぬようあらゆる戸を閉じることができる。神の助けと祝福を受けようと心を開いている者は、この世の人よりはきよい雰囲気の中を歩き、天と絶えざる交わりを続けることができる。(同上 136, 137)

#### 2. 心を開き、家を開く

a. 今日忙しい世の中でしばしば忘れられている、しかし非常に価値のある尊いクリスチャンの特徴を一つあげなさい (ローマ人への手紙 12:13; ペテロの第一の手紙 4:9)。

「聖書はもてなしの実践を大いに強調している。義務としてもてなしを課すだけでなく、それはこの恵みと祝福を働かせるときにもたらす数多くの美しい光景を提示する。…

アブラハムの甥であるロトは、ソドムに自分の家庭を構えたが、父祖の親切ともてなしの精神を吹き込まれていた。夕暮れ時に、二人の旅人が町の門にいるのを見て、そしてその邪悪な都市で確かに彼らを襲う危険を知って、ロトは強いて彼らを自分の家に連れて行った。結果として自分自身と自分の家庭に及ぶかもしれない危険については、何も考えなかった。危険に陥った人を守り、家のない者の世話をすることは彼の生涯の働きの一部であった。そして親切のうちに二人の知らない旅人に対してなされた行為は、天使を彼の家庭に連れてきたのであった。彼が守ろうとした人々が、彼を守った。夕暮れに彼が安全のために自分の戸口へ導いた人は、明け方には彼と彼の家族を安全のうちに、滅びの運命にあった町の門から連れ出したのであった。

これらの礼節の行為を、神はご自分のみ言葉の中に記録するほど十分重要なものだとお考えになった。そして一千年以上も後になって霊感を受けた使徒によって次のように言及された、『旅人をもてなすことを忘れてはならない。このようにして、ある人々は、気づかないで御使たちをもてなした』(ヘブル 13:2)。

アブラハムとロトに与えられた特権は、わたしたちにも与えられている。神の子らに対するもてなしを示すことによって、わたしたちもまた、神の御使たちを自分たちの住まいへ招き入れるのである。わたしたちの時代においてさえ、人のかたちをとった天使たちは、人の家庭に入り、彼らによってもてなされる。そして神のみ顔の光のうちに生きるクリスチャンたちはいつも目に見えない天使たちに伴われており、これらの聖なる存在は彼らの後に、わたしたちの家庭の中へ祝福を残していくのである。」(教会への証6巻341,342)

b. これはどのようなすばらしい原則を思い起こさせますか (ピリピ人への手紙 2:4)。

「この世におけるわたしたちの働きは、他人の益のために、他人を祝福するために、温かくもてなすために生きることである。そしてしばしば、わたしたちの世話と、わたしたちの交わりや家庭の恩益を本当に必要としている人々をもてなすことができるのは、いくぶんかの不都合を被ることによってのみかもしれない。」(同上 2 巻645)

#### 3. 他にない愛

a. わたしたちがイエスから学んだ驚くべき、卓越したご性質の深さを述べなさい (ペテロの第一の手紙 1:21-23; ローマ人への手紙 12:14)。

「わたしたちはカルバリーの山に登り、十字架を見上げ、苦悩のうちにあるわたしたちの救い主を見、瀕死の神のみ子、不義の者のための義なる方を見るとき、心の柔和と謙遜の教訓を学ぶことができるのである。一言でご自分を助ける天の軍団を招集することもできたお方、からかいや騒ぎの対象となり、ののしりと憎しみのまとになられたお方を見つめなさい。主はご自身を罪のための犠牲としてお与えになった。非難されても、主はひるまなかった。偽りの告発がなされても、主は口を開かれなかった。主はご自分の殺害者のために十字架の上で祈られる。主は彼らのために死のうとしておられる。主は彼ら一人一人のために無限の代価を払おうとされている。主はご自分が偉大な代価で買われた人を失いたくないと思っておられる。主はつぶやくこともなく、打たれ、さげすまれるままにされた。そしてこの無言の犠牲は神の子なのである。主のみ座は永遠からであり、主のみ国には終わりがない。……見よ、カルバリーの十字架を見上げよ。あなたのために苦しまれる王の犠牲を見つめよ。……

神のみ子はわたしたちのために拒まれ、さげすまれた。あなたは十字架が全部見えるところで、信仰の目でキリストの苦しみを見つめながらあなたの試練、あなたの敵の話を語ることができるだろうか。キリストの青ざめた、わななかれるくちびるから、ご自分をののしる者、殺害者のために『父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです』(ルカ 23:34)と、主が祈られているその時に、あなたはあなたの敵への復讐を心の中にいだいていることができるだろうか。」(彼を知るために 65)

b. キリストのために魂を勝ち取るためのいくつかの不可欠な鍵をあげなさい (ローマ 人への手紙 12:15)。

「兄弟たちよ、砕けた悔いた心を持とう。舌を汚す言葉ではなく、愛と同情の表現が唇から流れ出るようにしよう。愛が心に作り出せる暖かさを他の人々が感じるようにしよう。」(SDA パイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント]3 巻 1164)

「個人的に努力によって、人々に近づいていくことが必要である。説教に用いる時間を減らし、個人伝道にもっと多くの時間を使うならば、さらに大きな結果をもたらすだろう。貧しい者を助け、病める者を看護し、悲しむ者、親しい人を失った者を慰め、無知な者に教え、経験がない者には助言を与えなければならない。わたしたちは泣く者と共に泣き、喜ぶ者と共に喜ぶべきである。納得させる力と祈りの力と神の愛の力が伴うならば、この働きが実を結ばずにおくはずはなく、必ず結ぶのである。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング 115)

#### 4. 他の人との関係

a. わたしたちは皆、どの生来の態度を、自分とは非常に異なるキリストの方法に置き換えることを選ばなければなりませんか。それはなぜですか(ヤコブの手紙 1:9, 10: ローマ人への手紙 12:16)。

「イエスは、教会の弱点とのろいとなるのは、自己を義とする精神であることを認められた。とかく、人間は、天国にはいるために、自分たちで何かの行ないをすることができると考える。また、幾分かの進歩をするならば、主が来て助けてくださると思いやすい。こうして、自己を高め、イエスのお姿はあらわされない。わずかの進歩しかしないのに、高慢になって、優越感をいだくものが多い。彼らは、人の賞賛を求め、自分が最も重要視されないと、人をねたむのである。キリストは、こうした危険から弟子たちを守ろうとなさった。

自分の功績を誇ることは、すべて見当違いである。……

愛は、真理を喜び、うらみがましい比較を 試みない。愛をもっている者は、ただキリストのうるわしさと自分の不完全な品性とを比較するだけである。」(キリストの実物教訓 379, 380)

b. 他の人からひどい扱いを受けたとき、何がわたしたちが常に心にとめておくべき 霊感を受けた知恵でしょうか (ローマ人への手紙 12:17, 18; 箴言 16:7)。

「揺るがない信仰と無我の愛は、積極的な戦いを妨げるために義務の道で生じる困難を克服する。この信仰によって鼓舞された人々は、魂を救う働きにおいて前進する。彼らは走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。

わたしは、もしあなたが正しい分野で働くならば、神があなたの敵をあなたと平和をなすようにしてくださることを保証する。このお方はあなたを引き上げ、あなたを強めて下さる。あなたが自分の言葉をよく守るという契約を神と結びなさい。『わたしたちは皆、多くのあやまちを犯すものである。もし、言葉の上であやまちのない人があれば、そういう人は、全身をも制御することのできる完全な人である』(ヤコブ 3:2)。報復的な言葉は決してだれをも勝利を得たと感じさせることはない。キリストがあなたを通して語るようにしなさい。悪を思わないことからもたらされる祝福を失ってはならない。」(教会への証 7 巻 243)

「あなたのすべての困難において、静かで、乱されず、忍耐強く、寛容でありなさい。そして悪をもって悪に報いず、かえって善によって悪に報いなさい。はしごの頂点を見なさい。神がその上におられる。このお方の栄光が天へ向かって上っているすべての魂の上に輝いている。イエスがこのはしごであられる。このお方によって上り、このお方にしがみつきなさい。まもなくあなたははしごを下りて、このお方の永遠の御国に入るようになる。」(同上8巻130)

#### 5. 態度がすべてである

a. もし永遠にキリストにあって印されることを期待するなら、わたしたちが発達させなければならない聖徒の忍耐を述べなさい (ルカによる福音書 21:19; ローマ人への手紙 12:19)。

「信仰によって歩むすべての人によって得られる経験は、純金よりも貴重なものである。神に対する揺らぐことのない信頼の道を歩む人は、天とのつながりを持つであろう。神の子供は、神だけに力と指導を求めつつ、自らの働きをすべきである。たとえ、もっとも厳しく深刻な状況に置かれても、落胆せずに希望を胸いっぱい抱きつつ、労し続けなければならない。」(SDA パイプル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 2巻1022)

「神の律法が全世界的に無視され、神の民がその同胞からの圧迫と迫害を受けるようになるそのときに、主が介入なさるのである。」(キリストの実物教訓 159)

「神の民の熱心な祈りは答えられる。神はご自分の民が心から神を求め、彼らの解放のために神に頼るのを非常に喜ばれるからである。神はご自分の民からこれらのことをするように求められると、彼らの保護者及び復讐者として立ち上がられる。」 (SDA バイブル・コメンクリ [E・G・ホワイト・コメント] 6巻 1081)

b. どのようにこの世代において忠実に輝くのでしょうか (ローマ人への手紙 12:20, 21)。

「わたしたちは裁きの時まで、親切で思いやりのある一連の行動が、一貫性のない者、理不尽で価値のない者に及ぼす感化力を決して知ることはできない。もし、彼らの側の一連の挑発や不正の後、あなたが彼らを無実な人であるかのように取り扱うなら、彼らに特別な親切の行為を示すために骨折りをさえ惜しまないなら、そのとき、あなたはクリスチャンの役割を果たしたのである。そして彼らは驚いて恥じ、あなたが譴責するために彼らの問題を悪化させる行為を率直に述べた場合よりも、自分たちの一連の行為と卑劣さをはっきりと認めるのである。」(医事伝道209,210)

金曜日 3月11日

#### 個人的な復習問題

- 1. 意気消沈をあらわにするよう誘惑されるとき、わたしは何を心にとめておくべきですか。
- 2. なぜわたしはもてなしが自分にとって祝福であった時のことを思い出すべきなのですか。
- 3. わたしはどのようにキリストのご自分の殺人者に対する態度を反映するよう召されていますか。
- 4. 人生のどの分野において、サタンはわたしが何らかのかたちで優れていると思うように仕向けていますか。
- 5. もしわたしが正しかったとしても、わたしは誤っている人々を、どのように扱うべきですか。

## へりくだった柔和のうちに

暗唱聖句:「あなたがたは、主イエス・キリストを着なさい。肉の欲を満たすことに心を向けてはならない。」(ローマ人への手紙 13:14)

「〔ローマ 13:14 引用〕。すべての魂は、これらの言葉に注意を払おう。そして主 イエスは何一つ妥協をお受入れにならないことを知ろう。」(牧師への証 171)

推奨文献: 教会への証 6 巻 394-403

日曜日 3月13日

- 1. 霊感を受けたバランス
- a. 地上の当局に関して、すべての時代のクリスチャンの包括的な義務を説明しなさい (ローマ人への手紙 13:1-7: 使徒行伝 4:18-20: 5:17-20)。

「弟子たちがキリストの昇天後に、キリスト、しかも十字架につけられたキリストを宣布したとき、当局は彼らにこれ以上イエスの名によって語ることも教えることもしてはならないと命じた。〔使徒行伝 4:19, 20 引用〕。彼らは引き続きキリストを通しての救いの良き知らせを宣布した。そして神の力がメッセージを証言した。病人は癒され、幾千もの人々が教会に加えられた。…

天の神、宇宙の力強い統治者が、この問題をご自身の手にお引き受けになった。なぜなら、人間がご自分の働きに戦争をしかけていたからである。このお方は彼らにはっきりと人を超える統治者がいること、そのお方の権威は尊重されるべきことを示された。…

人に法王制の制度を遵守し、神の権威を踏みにじるように強制する人々は、使徒時代のユダヤ人指導者と同様の働きをしているのである。地上の為政者たちの法律が宇宙の最高統治者の律法に反対するとき、そのとき神に忠実な臣民は、神に対して忠実なのである。」(教会への証5巻713)

「わたしは神がシナイから聞こえる声で語られ、後にご自身の指で石に彫り刻まれたさらに高い律法と矛盾しない限り、すべての事情において、わたしたちの国の法律に従うことが、わたしたちの義務であることを見た。」(同上1巻361)

#### 2. 適切な敬意を維持する

a. キリストは神とその統治に対するわたしたちの義務に関して、どの態度と標準をお教えになりましたか (マルコによる福音書 12:13-17; ローマ人への手紙 14:16)。

「キリストの答は言いのがれではなく、質問に対する率直な答であった。カイザルの名前と肖像がきざまれているローマの貨幣を手に持ちながら、イエスは、彼らがローマの権力下に生活しているのだから、神に対する義務と矛盾しない限り、ローマの求める支持を与えるべきであると宣言された。しかしその国の法律に柔順に従う一方では、いつでも神への忠誠を第一としなければならなかった。」(各時代の希望下巻 50)

b. 忠実な神の人によって例証されたように、わたしたちがつねに統治者たちに表す べき態度を述べなさい (ダニエル書 6:16-22; テトスへの手紙 3:1, 2; ペテロの 第一の手紙 2:17)。

「われわれは人間の政府を神が定められたものとして認め、合法的な範囲内でそれに従うことを、聖なる義務として教えなければならない。しかし、その要求が神のご要求と矛盾するときは、人間よりむしろ神に従わねばならない。神のみことばをすべての人間の法律にまさるものとして認めねばならない。『教会がこう言う』あるいは『国がこう言う』ということのために、『主がこう言われる』ということを放棄してはならない。キリストの王冠は、この世の主権者の王冠より高くかかげられねばならない。

われわれは、権威を無視するようには求められていない。法と秩序に反対する者と思われるようなことをしゃべったとして記録されることがないように、話す言葉でも、書く言葉でも、注意深く気をつけなければならない。われわれの道を不必要に閉ざすようなことを、言ったりしたりしてはならない。われわれはキリストのみ名によって前進し、ゆだねられた真理を擁護しなければならない。」(患難から栄光へ上巻 68, 69)

「政府の役人たちによってなされたことに、いつも欠点を見出すことは賢明ではない。個人や団体を攻撃することは、わたしたちの働きではない。…わたしたちの働きは神の大いなる日に立てるように人々を準備させることである。わたしたちは争いを奨励したり、自分たちの信仰と異なる人々のうちに敵意を呼び起こしたりする分野に向かってわき見をすべきではない。」(教会への証6巻394)

「慎しみを尽くして、恵みの精神のうちに、そして神の愛のうちに、わたしたちは人々に主なる神が天地の創造主であられること、また第七日目が主の安息であることを指し示さなければならない。」(同上 395)

#### 3. 神の御霊を切望する

a. 神の戒めを自分の心のうちに持つ効果を述べなさい (ローマ人への手紙 13:8-10)。

「神の律法は、人々が心と思いと魂と力を尽くして神を愛し、自分の隣人を自分自身のように愛するときに成就する。いと高き所におられる神に栄光を帰し、人々に平安といつくしみをもたらすのは、この愛の表れである。主はご自分の律法の偉大な目的が達成されるときに、栄光をお受けになる。各時代において、人間の心に愛を与えるのは聖霊の働きである。なぜなら、愛は兄弟関係の生きた原則だからである。

魂の一つの片隅でも角でも、利己心の隠れ家となるべきではない。神は天の計画が実行されること、また天の神聖な秩序と調和が、すべての家族、すべての教会、すべての施設で行き渡るようにと望んでおられる。この愛は社会にパン種のように感化を与えるなら、わたしたちはクリスチャンの精練と礼儀の高尚な諸原則、またキリストの血で買われた人々に対するクリスチャンの愛のうちに諸原則が完成するのを見るはずである。霊的な変化が、わたしたちのすべての家族の中で、すべての施設の中で、わたしたちの諸教会の中で見られるようになる。この変化が起こるとき、これらの代理人たちは神が天の光を世に与えるための器となり、こうして神聖な規律と訓練を通して、男女を天の社会にふさわしいものとするのである。

イエスは、ご自分の愛と恵みを通して、祝福の住まいのために、自らを準備する人々のために住まいを用意しに行かれた。天における神の家族には、利己的な者はひとりもいない。天の宮廷の平安と調和は、粗野で不親切な人の存在によって損なわれることはない。自分がするように与えられた働きにおいて、この世で自らを高める人は、精神が変えられない限り、柔和でへりくだった者となり、幼子のような単純さを表さない限り、決して神の御国を見ることはない。」(教会への証8巻139,140)

b. 今はかつてなかったほど、どのまじめな召しがわたしたちにこだましていますか (ローマ人への手紙 13:11)。

「牧師も信徒も、主を見出すことができるうちに求めるよう、無頓着で無関心な 人々に告げるために、実った畑に出て行こう。」(同上8巻 253)

「今、神の日は、わたしたちが最初に信じた時よりも近い。そしてわたしたちはもっと真剣に、もっと熱心に、そして初期の時代よりも熱烈になるべきである。わたしたちの危険は当時よりも大きい。魂はもっとかたくなになっている。今こそキリストの御霊を吹き込まれる必要がある。そしてそれを受けるまで安んじるべきではない。」(教会への証 5 巻 152)

#### 4. かつてなかったほどの焦点と熱意

a. 時の終わりに近づくにつれ、何が極めて重大ですか (ローマ人への手紙 13:12-14)。

「主はご自分の民に対して天を閉じて来られなかった。しかし、彼ら自身の継続的な背信、論争、嫉妬、紛争が、このお方から彼らを引き離してきた。世の誇りと愛が、心の中に生きている。…

不純が、キリストに従うと公言する人々の間でさえ、広まっている。多くの人々は、神が禁じておられる世俗的で不道徳な娯楽に熱心に参加している。こうして彼らは自らの神とのつながりを切り、世の娯楽愛好者と肩を並べるのである。もし神の目に彼らの罪が映るように彼らの前に提示なさるなら、彼らは恥と恐怖に満たされるであろう。

この憂慮すべき事態を引き起こしたのは何であろうか。多くの人々は宗教的な真理の理論は受け入れてきたが、その諸原則に改心してこなかった。実に罪のために真の悲しみを感じる人々はほとんどいない。再生されていない性質の堕落について苦痛を感じるほど深く自覚し、キリストが歩かれたように歩もうとしている人はほとんどいない。石の心が肉の心に取り換えられていない。岩の上に落ちて砕かれようとする人はほとんどいない。

わたしたちが神性な憐れみを要求する権利がないときに、キリストがわたしたちの贖いを喜んで引き受けて下さるとは、なんという超越的な愛とへりくだりであろう!しかし、わたしたちの偉大な医者は、すべての魂に質問しない従順を要求される。わたしたちは決して自分自身の病状を診断してはならない。キリストがわたしたちの意志と行動の一切の支配権を持たなければならない。さもなければ、このお方はわたしたちのために引き受けることはなさらないのである。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1887年7月14日)

「わたしたちは、いわば永遠の世界の境界に立っている。わたしたちは自分の主が栄光に満ちて現れるのを待ち望んでいる。夜はずいぶんふけた。朝は近い。わたしたちが贖いの計画の偉大さを悟るとき、今よりはるかにもっと勇気をもち、自己を犠牲にし、献身することであろう。

成功がわたしたちの努力に冠する前に、わたしたちのなすべき偉大な働きがある。わたしたちの家庭と、わたしたちの教会において、断固とした改革がなければならない。両親は自分の子供たちの救いのために労しなければならない。神はわたしたちが自分の側で神の課されたすべてのこと、またなす資格を与えて下さったすべてのことを果たすときに、わたしたちの努力と共に働いてくださる。しかし、わたしたちの不信、世俗、怠慢のために、まさにわたしたちの家庭の陰にいる血で買われた魂が、彼らの罪のうちに死につつあり、警告を受けずに死につつあるのである。サタンがいつまでも勝利するのであろうか。ああ、そうではない!カルバリーの十字架から反射している光は、わたしたちの目がまだ目撃していないもっと大きな働きがなされるべきことを示唆している。」(教会への証5巻382,383)

#### 5. 兄弟愛

a. 全人類が様々であるという事実を考えるとき、わたしたちは互いをどのように扱う べきですか (ローマ人への手紙 14:7-13)。

「人生のすべての交わりは、自己抑制、寛容、同情を働かせるよう要求している。 わたしたちは気質、習慣、教育が非常に広く多様性に富んでいるため、物事の見方 も多岐にわたっている。判断も異なっている。わたしたちの真理の理解、生活のふ るまいに関する考え方はあらゆる面において同じなのではない。あらゆる詳細に至 るまで経験が似ている人はふたりといない。一人の試練は、他の人の試練ではない。 一人が軽いと思う義務は、他の人にとっては最も困難で困惑するものなのである。 非常に弱く、非常に無知で、非常に誤解しやすいのが人の性質であるから、万

いに相手を評価する際、気をつけるべきである。わたしたちは自分の行動が他の人の経験にどのような影響を及ぼすかがほとんどわからない。自分が行動し、語ることは、一瞬のことに見えるかもしれないが、目が開かれるならば、そこに善か悪かのための最も重要な結果がかかっていることを見るであろう。」(福音宣伝者 473)

b. 主はご自分の教会において不和を生じさせる人々を、どのようにご覧になりますか。そして、家族の中でも教会の中でも、どのようにしてのみ一致に到達することができますか (箴言 6:16-19; コロサイ人への手紙 1:27, 28)。

「家庭や教会内の不和や分裂の原因は、キリストから離れることにある。キリストに近づくことは、互いに近づき合うことである。教会と家庭が真に一致する秘訣は、折衝の仕方や運営の方法とか、困難を打開しようとする超人間的な努力にはなく―これらのこと大いにしなければならないが―キリストとの結合にある。

キリストに近づけば近づくほど、私たちは互いに近くなる。神の民が一致して協力的な行動をとるとき、神があがめられる。」(アドペンチスト・ホーム 191)

金曜日 3月18日

#### 個人的な復習問題

- 1. 地上の当局に関して、わたしは友人や家族に、どのような模範を示すことができますか。
- 2. すべてにまさる天の大権者を尊ぶバランスを説明しなさい。
- 3. わたしの態度は、どのようにわたしの生活において神の御霊を妨げるかもしれませんか。
- 4. キリストの来臨のための準備において、わたしはどの行動をとっているべきですか。
- 5. わたしがキリストを完全に求めるとき、どのように他人とのわたしの関係が変わりますか。

## 信仰という最終的な遺産

暗唱聖句:「どうか、望みの神が、信仰から来るあらゆる喜びと平安とを、あなたがたに満たし、聖霊の力によって、あなたがたを、望みにあふれさせて下さるように。」 (ローマ人への手紙 15:13)

「わが兄弟姉妹がた、イエスに思いをとどめ続けていなさい。心を祈りのうちに神の許へ上げ続けていなさい。イエスをながめ、このお方がわたしたちのために耐えられたことや苦しまれたことをながめなさい。こうしてわたしたちが神の命をもって量るその命を得るためである。」(手紙と原稿 21 巻 Ms.95, 1906 年)

推奨文献: ミニストリー・オブ・ヒーリング 490-501

日曜日 3月20日

- 1. 勇気をもって立てる
- a. わたしたちはどのように最も効果的に互いを高めますか (ローマ人への手紙 14:19)。

「イエスご自身、決して妥協によって安全をお求めにならなかった。イエスの心は 全人類に対する愛であふれていたが、イエスは、彼らの罪を決して甘やかされなか った。イエスは、人々が自分の魂ーイエスがご自分の血で買われた魂を滅ぼす道 を歩むのを彼らの友としてだまって見ていることがおできにならなかった。イエスは、 人が自分自身に忠実であるように、自分のもっと高い永遠の利害に忠実であるよう に、ほねおられた。キリストのしもべたちは同じ働きに召されているのであって、彼 らは、不和を防ごうとして、真理を放棄するようなことがないように気をつけねばな らない。彼らは『平和に役立つこと・・・・・・ を、追い求』るのであるが、真の平和は 決して主義を妥協させることによって確保することはできない(ローマ14:19)。だれ でも主義に忠実であれば必ず反対がひき起される。霊的であるキリスト教は、不 従順の子らによって反対されるであろう。しかしイエスは、弟子たちに、『からだを 殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな』とお命じになった(マタイ 10:28)。神に忠実な者たちは、人間の権力やサタンの敵意を恐れるにおよばない。 キリストのうちに彼らの永遠のいのちが確保されているのである。彼らのただ一つ の恐れは、真理を放棄するようなことはないか、そうすることによって神からの名 誉ある信任を裏切るようなことはないかということでなければならない。」(各時代 の希望中巻 89, 90)

#### 2. キリストに似ていること

a. キリストの体の肢体として、わたしたちはしばしば互いにどの責任をなおざりにしますか (ガラテヤ人への手紙 6:1, 2; ローマ人への手紙 15:1, 2)。

「わたしはこれまでも、そして今もなお、深刻な罪を犯してきた人々、そしてなお今でさえ神が彼らの罪をご覧になっているようには見ていない人々と、兄弟姉妹として交わりを持っている。しかし、主はこれらの人々を忍んでおられる。そうであれば、なぜわたしが忍ばないのであろうか。このお方はなお、ご自分の御霊が彼らの心に印象を与え、罪が彼らにパウロに現れたように、はなはだ罪深いものとしてあらわれるようになさるのである。

わたしたちは自分自身の心をほとんど知らないし、自分自身が神の憐れみを必要としていることをほとんど感じていない。これこそ、イエスがわたしたちに表され、またわたしたちが互いに表すべきやさしい同情を、わたしたちがこれほどわずかしか心に抱いていない理由である。わたしたちは自分の兄弟たちが弱く、わたしたち自身のように過ちを犯す死すべき人間であることを覚えているべきである。兄弟が不注意を通して誘惑に圧倒され、彼の普段のふるまいとは反対になんらかの過ちを犯したとしよう。彼に対してどのような道をとるべきであろうか。わたしたちは聖書から、神が偉大な良い働きをするために用いてこられた人々が、深刻な罪を犯したことがあることを学んでいる。主はこれらの人々を譴責せずにやり過ごすこともなければ、ご自分の僕たちをお捨てになることもない。彼らが悔い改めたとき、このお方は彼らを恵み深く許し、彼らにご自分のご臨在を表し、彼らを通して働かれたのである。哀れな弱い死すべき人間に、彼ら自身が神からと自分の兄弟たちからの哀れみと寛容を大いに必要としていることを考えさせなさい。彼らに自分がどのように他人をさばき、責めるかに気をつけさせなさい。」(教会への託 5 巻 246, 247)

b. わたしたちの主人が、わたしたちに残してくださった模範を述べなさい (ローマ人 への手紙 15:3)。

「世におられた間、「イエス」は世のものではなかった。このお方にとって、サタンが持ち込んだ敵意、堕落、不純と接触するように導かれることは絶えざる苦痛であった。しかし、このお方は人を神聖な計画との調和に、地を天とのつながりに導き入れるという働きを持っておられた。そしてこのお方はこの目的の達成のためには、どんな犠牲も大きすぎるとは思われなかった。このお方は、『すべてのことについて、わたしたちと同じように誘惑された』。サタンは、一歩ごとにこのお方を攻撃しようと待ち構え、このお方に向けて自分の最も激しい誘惑を投げかけた。しかしなお、『罪を犯さず、その口には偽りがなかった』。…

罪を憎まれたが、このお方は罪人を思って同情の涙を流された。このお方はご自分のために嘆願されたのではなかった。天の大君がご自身に子供の謙遜をまとわれた。これがキリストのご品性である。わたしたちはこのお方の御足の跡を歩んでいるであろうか。」(同上 421, 422)

#### 3. 輝き出るという希望

a. 闇に苦しめられるとき、何がわたしたちの希望ですか (ローマ人への手紙 15:4, 13)。

「哀れな、震える魂よ、神のみ約束のうちに安んじなさい。そうすることによって、敵のかせが打ち砕かれ、彼のほのめかしは力を失う。敵のささやきに注意を払ってはならない。圧倒されている魂よ、自由になって行きなさい。勇気を出しなさい。自分の哀れな意気消沈している心に言いなさい。『神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう』。わたしは神があなたを愛しておられることを知っている。このお方に信頼を置きなさい。悲しみや苦悩をもたらすそれらの事柄を考えてはならない。すべての嫌な思いから向きを変え、尊いイエスを考えなさい。このお方の救う力を、あなたを、あなたをさえ愛する不朽の愛を熟考しなさい。」(教会への証 2 巻 319)

b. キリストにあるわたしたちの交わりの目的は何ですか (ローマ人への手紙 15:5-7)。

「キリストが人を救い、彼らをご自分と御父がひとつであられるように互いの一致 へ導くために、これほど大きな犠牲を払われたときに、このお方に従う人々にとって、 この一致を維持するために払うのに大きすぎる犠牲とは何であろうか。

もし世が神の教会のうちに完全な調和が存在するのを見ることができれば、それは彼らにとってキリスト教を支持する強力な証拠となる。」(同上4巻19)

c. どのようにこの祝福された経験は広がるべきですか (ローマ人への手紙 15:8-12, 16)。

「主は異邦人が集められると、そして異邦人だけでなく、ユダヤ人も集められると 宣言してこられた。…至る所にユダヤ人がおり、彼らに現代の真理の光が伝えられ なければならない。彼らのうちには、光に来て、すばらしい力をもって神の律法の 不変性を宣布するようになる人々が大勢いる。主は働かれるであろう。このお方は 義のうちにすばらしいことをなしてくださる。」(伝道 578)

「使徒パウロは、信者たちに、『聖霊によってきよめられ』るようにと教えた。(ローマ 15:16) 聖霊の働きは、何であろうか。イエスは、弟子たちに次のように言われた。『けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう』(ヨハネ 16:3)」(各時代の大争闘下巻 167)

- 4. 真理をひろめなさい、偽りではなく
- a. パウロは自分の手紙の終わりに向けて、ローマ人の信徒たちに何を警告しましたか (ローマ人への手紙 16:17-19)。この問題は、どのように今日生じていますか。

「J兄弟は欺かれており、他人を欺いている。彼の主題は献身であったが、彼の心は正しくなかった。彼の思いはわかたれていた。彼には自分をとどめる錨がなく、しっかりとした信仰なしに漂ってきた。彼の多くの時間は、互いに思いをそらし、動揺させることを意図した報告や物語を語ることに占められてきた。彼にはわたしの夫とわたしに関して、そして幻に反対して告発することがたくさんあった。彼は、『告発せよ。さあ、彼を告発しよう』という立場をとってきた。神には彼をそのような使命のためにつかわされたのではなかった。彼は自分がだれに仕えてきたかを知らなかった。サタンが彼を用いて、人々の思いを混乱へ投げ入れた。第三天使のメッセージに反して思いに偏見を抱かせるために自分が持っていたわずかな感化力を用いてきた。…神は正直な魂の目を開いて、散らし、分離させる人々の残酷な働きを理解させられるであろう。このお方は不和を生じさせる人々を注意しておられる。それはすべての正直な人がサタンのわなから逃れることができるためである。」(教会への証 1 巻 334)

b. わたしたちは望みのうちに前を見つつ、なぜ前へ押し進んでいくことができるのですか (ローマ人への手紙 16:20)。

「キリストが力と大いなる栄光のうちに天の雲に乗って現れるときまで、人々は精神においてゆがみ、真理から作り話へと向きを変えるであろう。教会はなお悩みの時を見ることになる。教会は荒布を着て預言するようになる。しかし、異端と迫害に直面しなければならないにもかかわらず、また無神論者や背信者と戦わなければならないが、それでも神の助けによって、教会はサタンのかしらを砕きつつあるのである。主は、鋼のように真実で、花崗岩のように堅固な信仰をもつ民をお持ちになるであろう。彼らは世においてこのお方の証人、このお方の備えの日に特別な栄光に満ちた働きをなすためのこのお方の器となるのである。

福音のメッセージがただ一人の魂でもキリストへ勝ち取り、ただ一人の心にでも届くならば、必ずサタンのかしらを傷つけずにはいない。とりこが彼の手からもぎ取られ、彼の圧迫から救出されるとき、暴君は打ち負かされるのである。出版所、印刷所は、あらゆる言語や国民に真理の尊い光を送り出すための神のみ手のうちにある道具である。この光は異教の地にまで届いている。そして絶えず迷信や想定されるあらゆる誤謬に侵攻しているのである。」(同上4巻594,595)

#### 5. 永遠に素晴らしい奥義

a. わたしたちはどのように贖いの奥義の表れをもっと心全体で大切にすべきですか (ローマ人への手紙 16:25-27)。

「エデンで言いわたされた宣告の中にみられる最初の希望の暗示から、黙示録の中に、『御顔を仰ぎ見るのである。彼らの額には、御名がしるされている』(黙示録22:4)。とある最後の輝かしい約束にいたるまで、聖書の各巻各ページの主旨は人類を高めるという驚くべきテーマと、『わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜わった』(コリント第一15:57)神の能力を示すことにある。

この思想を把握する者の目の前には、限りない研究の分野がひろがっている。 彼は神のみ言葉という宝庫の全体を開くかぎをもっている。

救済の学問は、あらゆる学問の中の学問である。それは天使たちと他世界の聖者たちの研究している学問であり、救い主であるキリストの注意をひいている学問であり、限りない神の胸中にあって『長き世々にわたって、隠され』(ローマ 16:25) ていた御目的に関連した学問であり、神にあがなわれた者が永遠にわたって無限に研究しなければならない学問である。それはまた人の従事し得るところの最高の研究である。それは他のどんな研究よりも、心をいきいきさせ、魂を高めるのである。」(教育 135)

「罪のために制限されてはいるものの、この地上の人生における最大の歓喜と最高の教育は奉仕の中にある。罪のある人間としての制限に拘束されない来世においても、奉仕の中に最大の歓喜と最高の教育が見いだされる。それはあかしをたてることであり、あかしをたてるとともに『この奥義が、いかに栄光に富んだものであるか』を新しく学ぶのである。『この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである』と言われている(コロサイ1:27)。」(同上360)

金曜日 3月25日

### 個人的な復習問題

- 1. わたしは自分の会話をもって、どのように他の人々をもっと効果的に高めることができますか。
- 2. 他の人々の欠点に気がついたとき、わたしの祈りは何になるべきですか。
- 3. キリストにあるわたしたちの交わりが繁栄し拡張するために、わたしたちは何をすることができますか。
- 4. なぜ中傷やうわさ話は、教会にとって有害なのですか。
- 5. これから将来の最大の喜びのいくつかをあげなさい。

# 第一安息日献金



1月1日

プリマス指導者カレッジのために (4ページ参照)

## 2月5日

福祉援助のために (30ページ参照)



## 3月5日

オーストラリア、ケイラーパークの 教会のために (51ページ参照)